DENON

AVサラウンドアンプ

AVC-1620

取扱説明書

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

簡単セットアップと操作のしかた

接続のしかた

基本操作のしかた

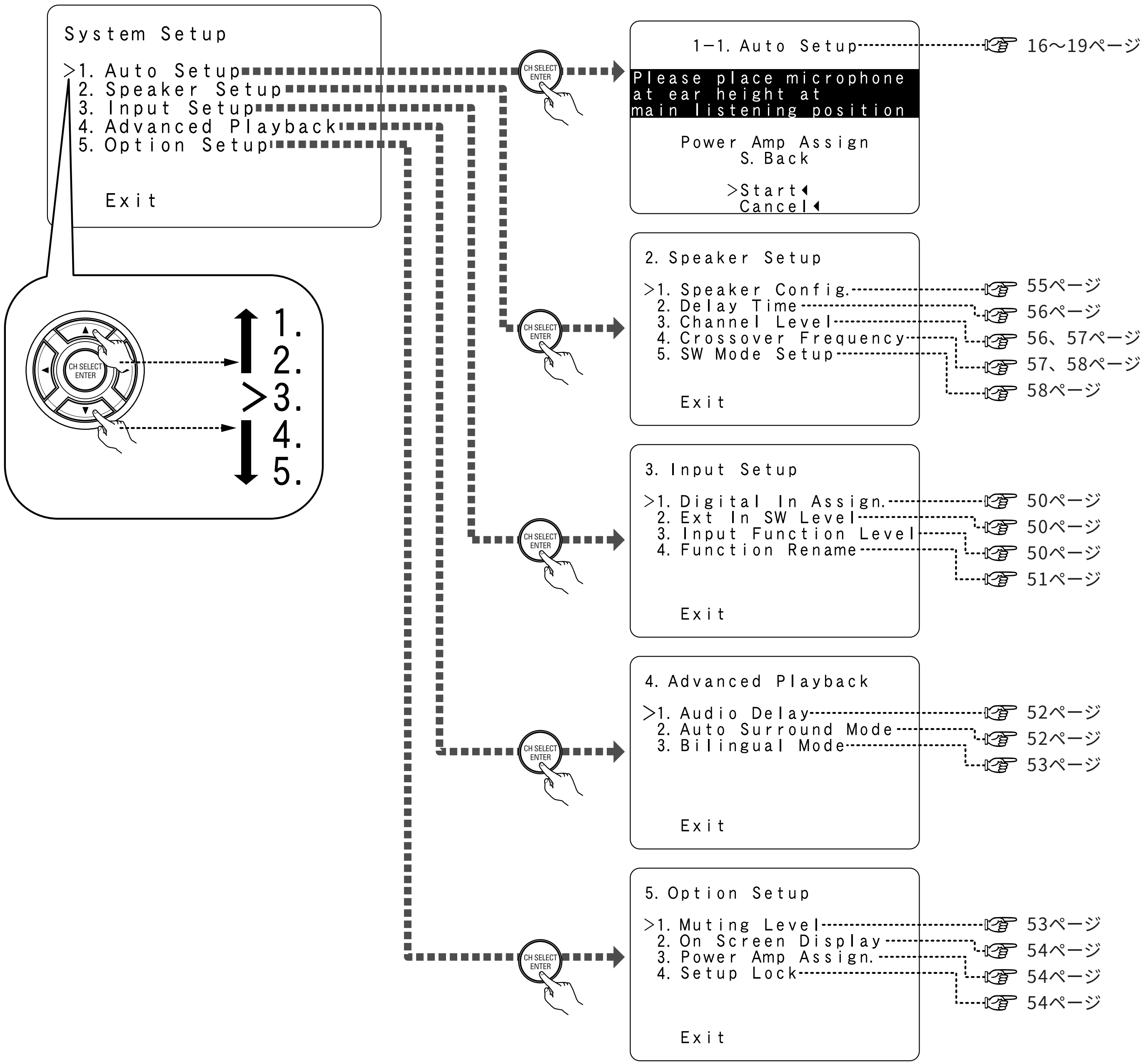
応用操作のしかた

より詳細なセットアップのしかた１

より詳細なセットアップのしかた２

その他について

■ システムセットアップメニュー



ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

⚠ 警告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

《ご使用になる前に》

⚠ 注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コード以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

⚠ 注意 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

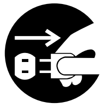
移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意 つづき

■ 使わないときは

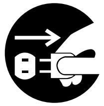
長期間の外出・旅行の場合は



安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は



安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を



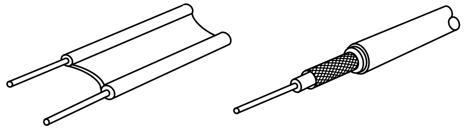
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

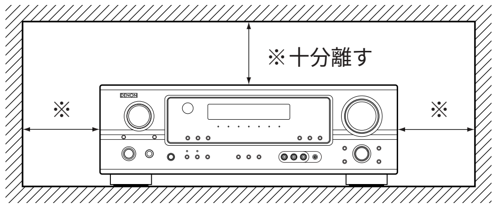
◎ 本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

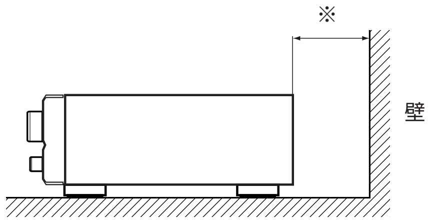
- 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。
- チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。
- 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。



300Ωフィーダー線　　75Ω同軸ケーブル

◎ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは十分離して設置してください（下図参照）。





その他のご注意

◎ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

◎ 電源ボタンをスタンバイにしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源ボタンをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

◎ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

◎ 説明のためのイラストは、実際の機器と異なる場合があります。

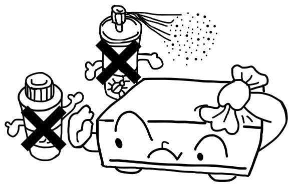
◎ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

《ご使用になる前に》

お手入れについて

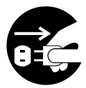
◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

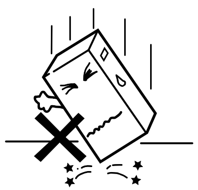


使わないときは

◎ **ふだん使わないとき**
- 電源ボタンを押して、スタンバイ状態にしてください。
- 外出やご旅行の場合には、必ず電源ボタンをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

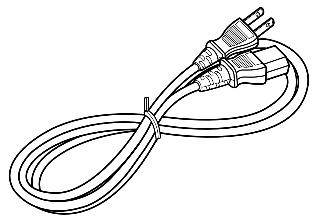
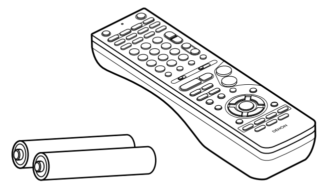
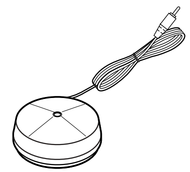


◎ **移動させるとき**
- 衝撃を与えないでください。
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。



付属品について

本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

電源コード（本機専用） 1本 	リモコン（RC-979） 1個 単3乾電池 2本 	セットアップマイク 1本 
取扱説明書（本書） 1冊	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表 1枚	保証書 （梱包箱に添付されています。）

ステレオ音のエチケット



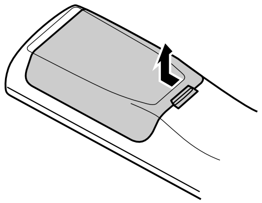
- 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
- 窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
- お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

リモコンについて

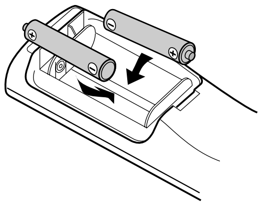
付属のリモコン（RC-979）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。また、他メーカーのリモコンのコントロール信号を記憶していますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます（☞ 41〜44ページ）。

乾電池の入れかた

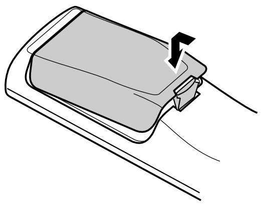
① 矢印のように押して引き上げます。



② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



③ 裏ぶたを元通りにしてください。

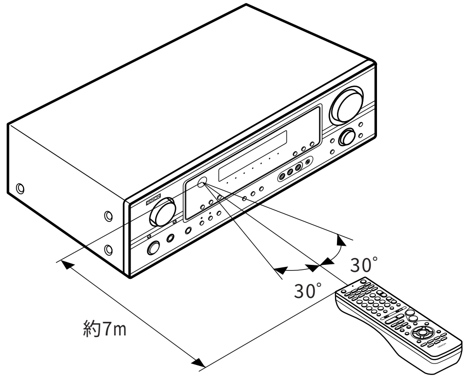


乾電池についてのご注意

- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

リモコンの使いかた

- リモコンは図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。



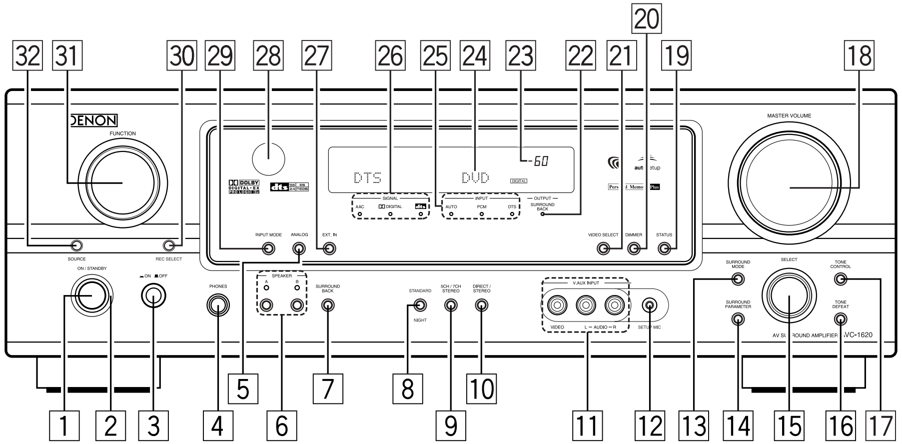
ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

各部の名前について

フロントパネル

各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。



1 **電源ボタン（ON/STANDBY）**……（17）

2 **電源表示**……（17）

3 **電源スイッチ（▁ON/■OFF）**……（17、48）

4 **ヘッドホンジャック（PHONES）**……（26）

5 **アナログボタン（ANALOG）**……（27）

6 **スピーカーボタンおよびスピーカー表示（SPEAKER）**……（26、48）

7 **サラウンドバックボタン（SURROUND BACK）**……（31）

8 **スタンダード/ナイトボタン（STANDARD/NIGHT）**……（28～33）

9 **5CH/7CHステレオボタン（5CH/7CH STEREO）**……（35）

10 **ダイレクト/ステレオトボタン（DIRECT/STEREO）**……（28）

11 **V. AUX入力端子（V. AUX INPUT）**……（22）

12 **セットアップマイクジャック（SETUP MIC）**……（16）

13 **サラウンドモードボタン（SURROUND MODE）**……（25）

《ご使用になる前に》

14 **サラウンドパラメーターボタン（SURROUND PARAMETER）**……（28）

15 **セレクトつまみ（SELECT）**……（25、28、38）

16 **トーンデフィートボタン（TONE DEFEAT）**……（38）

17 **トーンコントロールボタン（TONE CONTROL）**……（38）

18 **主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）**……（25）

19 **ステータスボタン（STATUS）**……（26）

20 **ディマーボタン（DIMMER）**……（26）

21 **ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）**……（26）

22 **サラウンドバック出力表示**……（31）

23 **主音量表示**……（25）

24 **ディスプレイ**

25 **入力モード表示（INPUT）**……（27）

26 **入力信号表示（SIGNAL）**……（27）

27 **外部入力ボタン（EXT. IN）**……（25）

28 **リモコン受光部**……（9）

29 **入力モード切り替えボタン（INPUT MODE）**……（27）

30 **録音出力切り替えボタン（REC SELECT）**……（48）

31 **入力ファンクション切り替えつまみ（FUNCTION）**……（25、48）

32 **ソース切り替えボタン（SOURCE）**……（25）

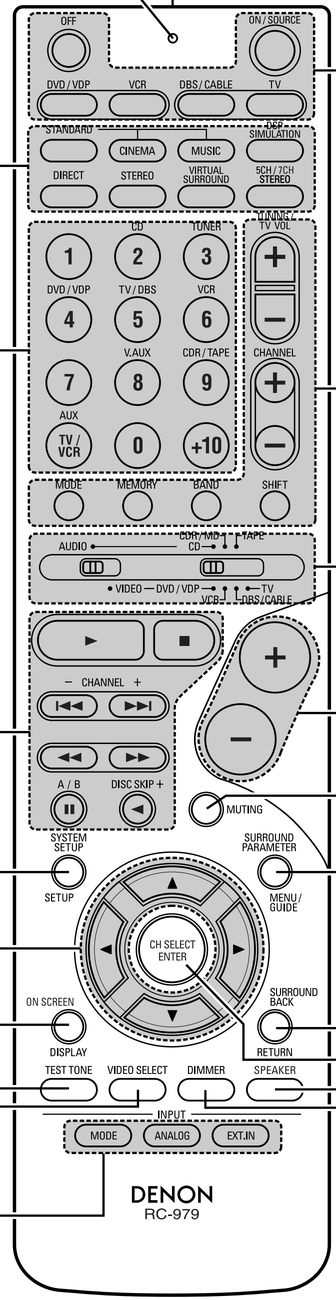
リモコン

- 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。
- 本機以外の機器の操作（システムボタン）の説明は、39～47ページを参照してください。

メモ

- ドルビーサラウンドプロロジックⅡxモードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでドルビーサラウンドプロロジックⅡxのシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。
- DTS　NEO：6モードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでDTS　NEO：6のシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

- 送信表示 ……（40、47）
- サラウンドモードボタン ……（25、36）
- 入力ソース切り替えボタン ……（25、45）
- システムボタン ……（39、45）
- システムセットアップ/セットアップボタン ……（45、49）
- カーソルボタン ……（17、28）
- オンスクリーン/ディスプレイボタン ……（26、45）
- テストトーンボタン ……（57）
- ビデオセレクトボタン ……（26）
- 入力モード切り替えボタン ……（25、27）



- リモコン信号送信窓 ……（9）
- 電源ボタン ……（17、40）
- チューナーシステム/システムボタン ……（39、46）
- モード切り替えスイッチ ……（17、39）
- 主音量調節ボタン ……（25）
- ミューティングボタン ……（26）
- サラウンドパラメーター/メニューボタン ……（28、45）
- サラウンドバック/リターンボタン ……（31、45）
- チャンネルセレクト/エンターボタン ……（19、38）
- スピーカーボタン ……（26）
- ディマーボタン ……（26）

簡単セットアップと操作のしかた

- 簡単セットアップをおこなうことで、あなたのお部屋のリスニング環境に適したサラウンド再生をおこなうことができます。
- 本機の性能を発揮する上でも、オートセットアップ機能を使用して音場の設定をおこなうことをお勧めします。

メモ

- オートセットアップ機能を使用しないで手動による音場の設定をおこなう場合には、55〜58ページを参照してください。

簡単セットアップの流れ

スピーカーを配置する。

↓

スピーカーを接続する。

↓

DVDプレーヤーを本機に接続する。

↓

本機のMONITOR出力とテレビを接続する（☞ 15ページ）。

↓

オートセットアップの流れ

オートセットアップはテレビ画面の表示に従っておこなってください。

セットアップマイクを接続する（☞ 16ページ）。

↓

リスニングポジションでスピーカーの測定をおこなう。

1) スピーカーの種類
2) ディレイタイム
3) チャンネルレベル

スピーカーシステムの測定結果を確認する。

測定結果を記憶させてください。

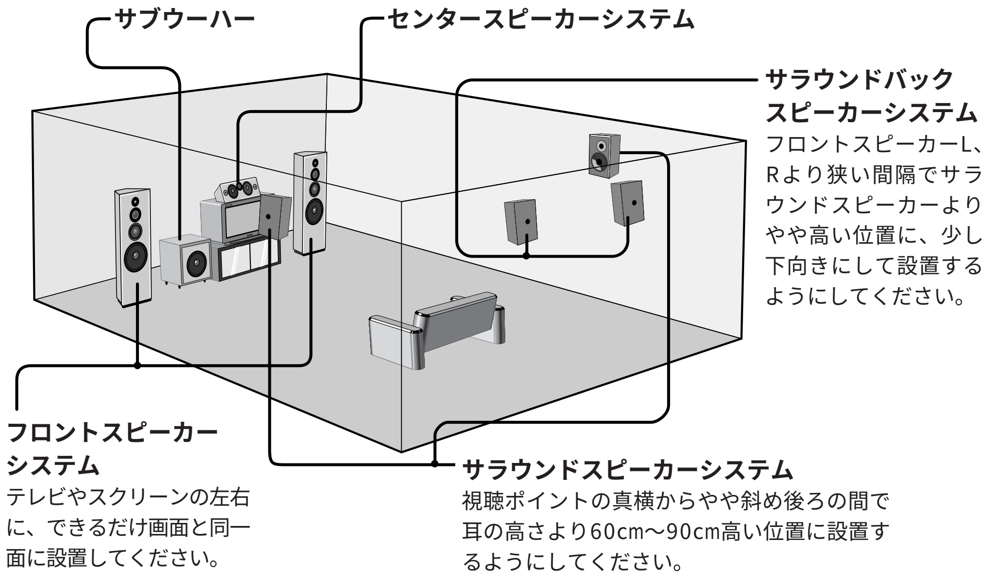
↓

DVDを再生する。

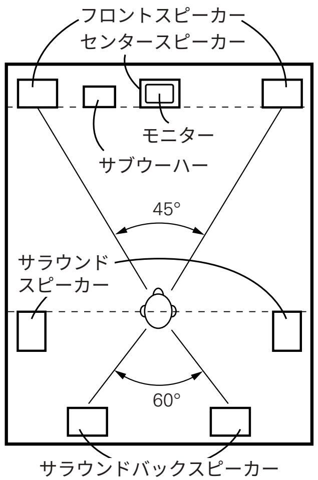
スピーカーシステムのレイアウト

基本的なシステムレイアウト

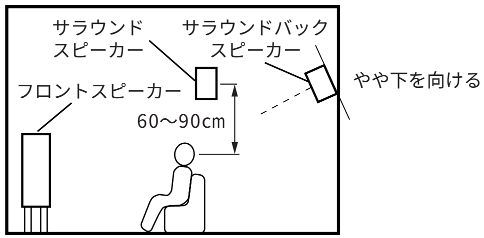
スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。



■ 上面から見た図



■ 側面から見た図



※ スピーカーシステムのレイアウトについての説明は、63〜65ページを参照してください。

《簡単セットアップと操作のしかた》

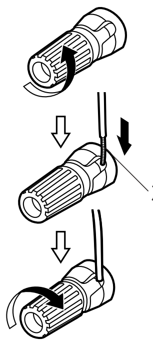
スピーカーの接続のしかた

- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。
- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

■ スピーカーのインピーダンスについて

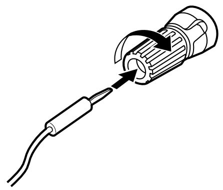
- センター、サラウンドおよびサラウンドバック用スピーカーは、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- フロント用スピーカーシステムAまたはBのどちらか一方を使用する場合は、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- フロント用スピーカー2組（A＋B）を同時に使用する場合は、インピーダンスが12〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- 指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用して、長時間にわたって再生したり、大出力で楽しんだりすると、保護回路が動作することがあります。

スピーカーケーブルの接続



1. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
2. コード芯線を差し込む。
3. 右に回して端子を締める。

バナナプラグの接続



右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入する。

ご注意

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

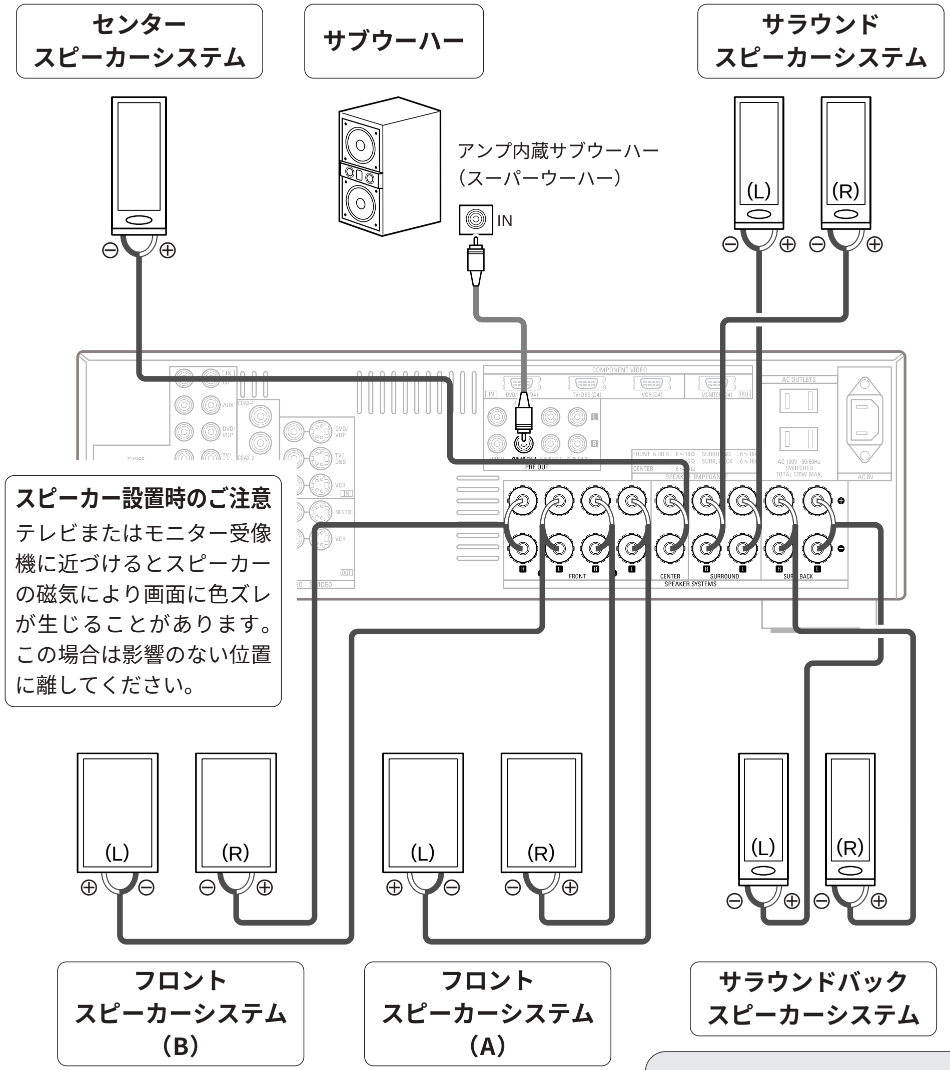
本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーインピーダンスにおけるご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えばスピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大出力で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断されますので、電源コードを抜いてください。本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して電源を入れ直してください。

■ スピーカーの接続

接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。



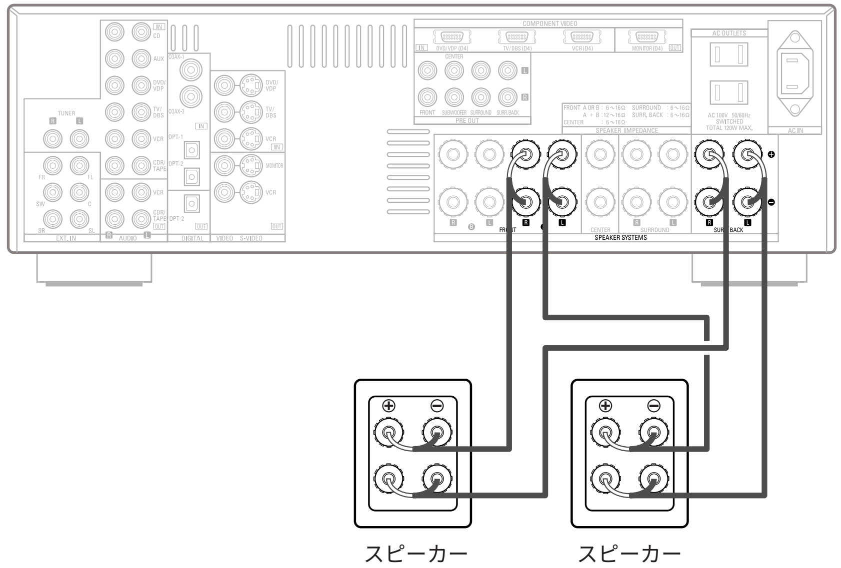
スピーカー設置時のご注意
テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

《簡単セットアップと操作のしかた》

■ スピーカーのバイアンプ接続

- お手持ちのスピーカーがバイアンプ対応の場合、アンプ出力を高音用と低音用に振り分け、それぞれスピーカーのウーハー端子とツィーター端子に接続します。
  これによりスピーカーの特性を最大限に活かし、フルレンジのシステムに比べてレンジの広いダイナミックなサウンドを再生することができます。
  接続の際には、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- バイアンプ接続をおこなう場合は、“ Power Amp Assign. ” を “ Bi-Amp ” に設定してください（☞ 54ページ）。

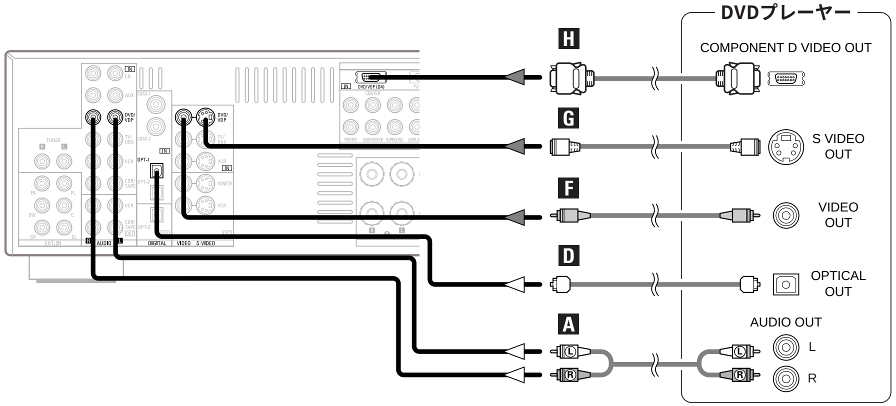


メモ

- バイアンプで接続するときは、スピーカーに付属されている短絡板は必ず外してください。

DVDプレーヤーとモニター（テレビ）の接続のしかた

- ビデオ/Sビデオ映像端子に接続された信号は、コンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子には出力されません。（すべてのケーブルを接続する必要はありません。）詳しくは、ビデオコンバージョン機能（☞ 21ページ）をご覧ください。
- デジタル音声を再生する場合は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。75Ωピンプラグケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 50ページ）。
- ビデオディスクプレーヤーは、同じ方法でDVD/VDP端子に接続することができます。

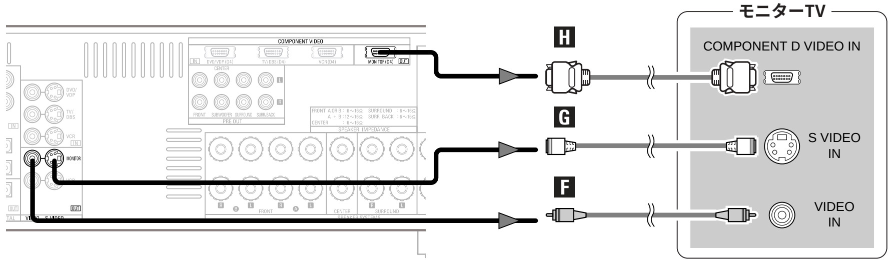


IN　OUT：**オーディオ信号の方向**

IN　OUT：**ビデオ信号の方向**

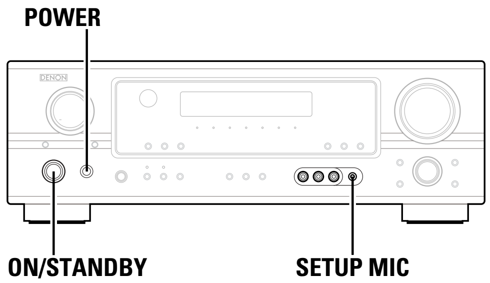
《簡単セットアップと操作のしかた》

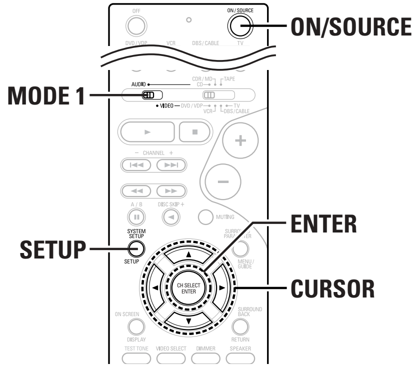
- 再生機器と本機をD端子用接続ケーブルで接続した場合は、本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間もD端子用接続ケーブルを使用してください。（すべてのケーブルを接続する必要はありません。）



メモ

- 本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間を、ビデオケーブルまたはSビデオケーブルで接続する場合は、再生機器と本機もビデオケーブルまたはSビデオケーブルで接続してください。
  D端子用接続ケーブルのみで接続すると、映像信号は出力されません。
- 本機のD端子は、D1～D4（480i、480p、1080i、720p）の映像端子に対応しています。





オートセットアップ機能について

本機のオートセットアップ機能は、接続したスピーカーシステムの音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。

■ 測定および設定内容

① Speaker Configuration：
スピーカーの接続状態、極性および低域の再生能力を判断し、設定します。

② Delay Time：
リスニングポジションに応じて、各スピーカーから出力される最適な音声のタイミングを測定し、設定します。

③ Channel Level：
各スピーカーから出力される音量を測定し、設定します。

正確な測定をするために

- オートセットアップ中は静かにしてください。また、ノイズを発生する可能性のあるエアコンやプロジェクターなどの電源を切ることをお勧めします。
- 測定中にマイクロホンとスピーカーの間に立たないでください。
- マイクロホンとスピーカーの間に障害物を置かないでください。また、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置してください。

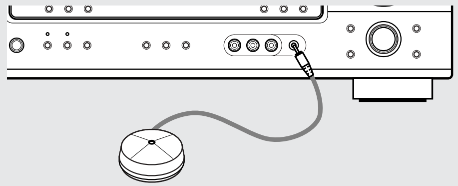
ご注意

測定中は大きなテストトーンが出力されます。
夜間の測定や小さなお子様はリスニングルームに立ち入らせないなどご配慮ください。

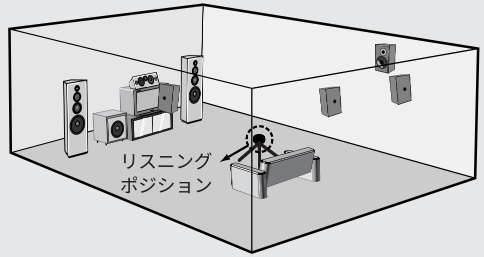
《簡単セットアップと操作のしかた》

オートセットアップ用マイクを接続する

1 **本機前面の SETUP MIC ジャックに付属のオートセットアップ用マイクを接続する。**



2 **オートセットアップ用マイクを実際に視聴する位置（リスニングポジション）に耳と同じ高さで設置する。**



※ 設置するときは三脚や水平な台を使用してください。

ご注意

セットアップマイクは、測定が終わるまで絶対に抜かないでください。

電源を入れる

1 **サブウーハーの電源を入れる。**

2 **モニター（テレビ）の電源を入れる。**

3 **POWER スイッチを押す。**

▂ ON：
電源が入り、電源表示が点灯します。
リモコンで電源の入/切ができます。

▆ OFF：
電源が切れ、電源表示が消灯します。
リモコンで電源の入/切ができません。

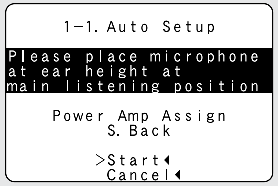
4 **本体の ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの ON/SOURCE ボタンを押す。**
- 電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

5 **リモコンの MODE 1 スイッチを“ AUDIO ”に設定する。**

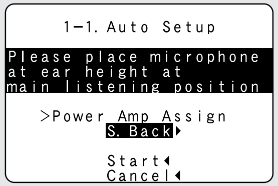
※ リモコンでのみ操作できます。

オートセットアップをおこなう

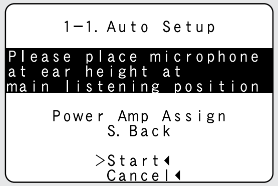
1 **本機前面の SETUP MIC ジャックに付属のオートセットアップ用マイクを接続する。**
- “ Auto Setup ”画面が表示されます。



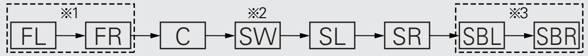
2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して“ Power Amp Assign. ”を選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して“ S. Back ”または“ Bi-Amp ”を選ぶ。**



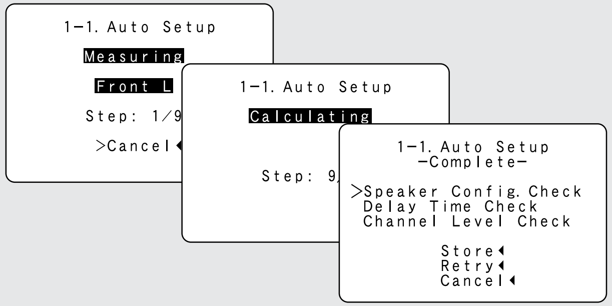
3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して“ Start ”を選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。**
- 測定をはじめます。



※ 各チャンネルの測定は下記の順序でおこなわれます。



※1：フロントスピーカー（A）のみ測定されます。フロントスピーカー（B）が設定されていた場合でも、測定終了後は自動的にフロントスピーカー（A）の設定に切り替わります。
※2：サブウーハーは2回測定されます。
※3：“ Bi-Amp ”を選んだときは表示されません。
各チャンネルの測定後“ Calculating ”が表示されます。
自動的に“ Auto Setup Check ”画面に切り替わります。



メモ

- 測定中に **MASTER VOLUME** つまみを動かした場合は測定中止となります。
- お使いのサブウーハーにボリウム設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合は、サブウーハーのボリウムを半分の位置に設定し、クロスオーバー周波数を“ 最大 ”またはローパスフィルターを“ オフ ”に設定してください。

■ 再設定について

最適な測定結果を得るために再測定が必要な場合は、自動的に再測定がおこなわれます。
再測定は2回までおこなわれます。
再測定中は“ Retry1 ”または“ Retry2 ”が表示されます。

```
1-1. Auto Setup
Retry1
Measuring

Front L

Step: 1/9

>Cancel◀
```

メモ

- セットアップマイクを使用して測定した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、内部の電気的な遅延により実際の距離と異なる値を設定する場合があります。

エラーメッセージについて

- オートセットアップの測定をおこなったとき、スピーカーの配置や測定環境などのために自動測定が完了できなかった場合はこれらのエラー画面が表示されます。下記をご確認のうえ該当する項目を設定し直して再度測定してください。
- 部屋の騒音が大きすぎる場合には正しくスピーカーが検出されない場合があります。このような場合には、騒音の小さい時間に測定をおこなうか、測定の間は騒音を発生する機器の電源を切ってください。

例	原　因	処　理
1-1. Auto Setup -CAUTION- > Front L : None Retry◀ Cancel◀	① 適切な再生をおこなうために必要なスピーカーが検出されなかった場合 ● フロントLまたはフロントRスピーカーが正しく検出されなかった。 ● サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されなかった。 ● サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、Rチャンネルから検出された。 ● サラウンドバックスピーカーが検出されて、サラウンドスピーカーが検出されなかった。	● 該当するスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
1-1. Auto Setup -CAUTION- > Front L :Phase Retry◀ Cancel◀ Skip◀	② ペアとなるL/Rのスピーカーの極性が逆に接続されている場合	● 該当するスピーカーの極性を確認してください。スピーカーによっては正しく接続されていてもこの画面が表示される場合があります。このような場合には“ Skip◀ ”を選択してください。
1-1. Auto Setup -CAUTION- Mic Input Overload >Exit◀	③ マイクへの入力レベルが高すぎるために正確な測定ができない場合	● 視聴位置をスピーカーから離してください。 ● サブウーハーの音量を下げてください。
1-1. Auto Setup -CAUTION- Setup Mic :None Press Enter or Cursor Down to Return to Auto Setup Menu	④ 測定用のマイクが接続されていない場合、またはすべてのスピーカーが検出されなかった場合	● セットアップマイクジャックに測定用のマイクを接続してください。

測定結果の確認とメモリーのしかた

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して確認したい項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

● 確認画面が表示されます。

【例】スピーカーの確認画面

```
   1-1. Auto Setup
     -Complete-

>Speaker Config. Check
 Delay Time Check
 Channel Level Check

        Store◂
        Retry◂
        Cancel◂
```

```
Speaker Config. Check

Front Sp.        Large
Center Sp.       Small
Surround Sp.     Small
S. Back Sp.      Small
S. Back Sp.      2sp
Subwoofer        Yes
```

※ 各項目の測定結果を確認できます。

2 **確認が終了したら、もう一度 ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、確認内容をメモリーするかどうかを選び、CURSOR ◁ ボタンを押す。**

Store：
イコライザーを含むすべてのパラメーターがメモリーされます。（約1分半程度時間がかかります。）

Retry：
再度最初から測定を開始します。

Cancel：
メモリーを中止します。

```
   1-1. Auto Setup
     -Complete-

 Speaker Config. Check
 Delay Time Check
 Channel Level Check

       >Store◂
        Retry◂
        Cancel◂
```

```
     1-1. Auto Setup

   Parameter Storing
```

DVDをサラウンド再生する

1 **本機からセットアップマイクを抜く。**

2 **SETUP ボタンを押して、システムセットアップモードを終了する。**

3 **再生する入力ソースを選ぶ。**

4 **再生（サラウンド）モードを選ぶ。**

5 **DVDの再生を開始する。**

6 **音量を調節する。**

《簡単セットアップと操作のしかた》

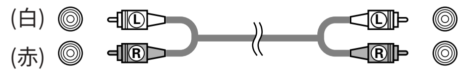
接続のしかた

接続ケーブルの表示

下図に示す接続ケーブル（別売り）を使用して、他の機器を接続してください。

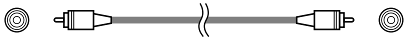
オーディオケーブル

A アナログ接続（ステレオ）



ピンプラグケーブル

B アナログ接続（モノラル、サブウーハー用）



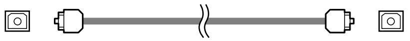
ピンプラグケーブル

C 同軸デジタル接続



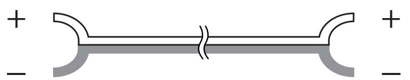
75Ωピンプラグケーブル

D 光デジタル接続



光伝送ケーブル

E スピーカー接続



スピーカーケーブル

ビデオケーブル

F ビデオ接続



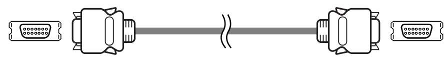
映像用75Ωピンプラグケーブル

G Sビデオ接続



S端子用接続ケーブル

H コンポーネント（D）ビデオ接続

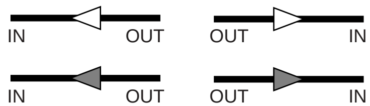


D端子用接続ケーブル

信号方向

オーディオ信号

ビデオ信号

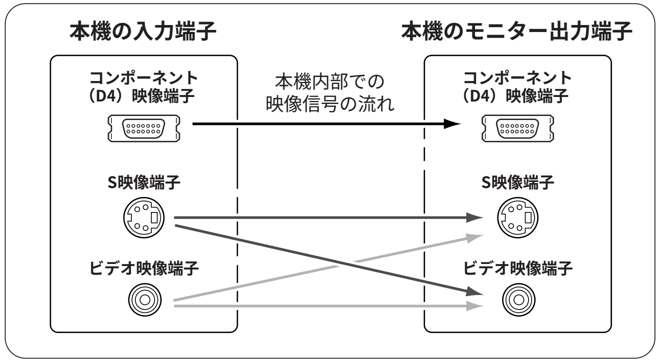


ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続ケーブルを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

ビデオコンバージョン機能について

本機のビデオ、Sビデオモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。



《接続のしかた》

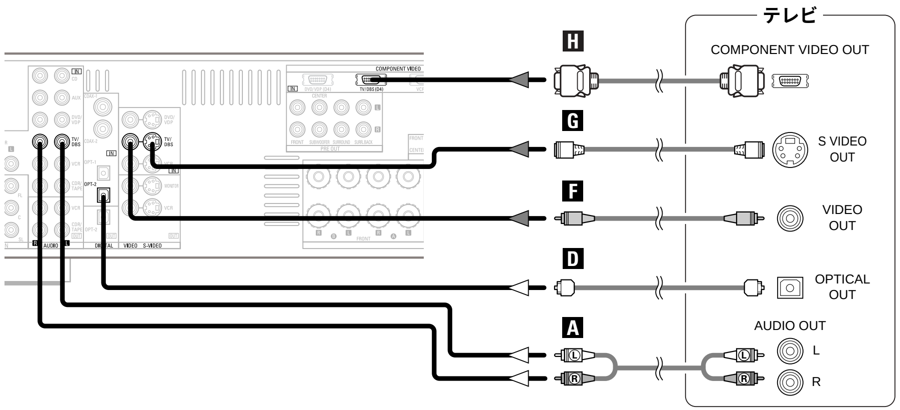
オンスクリーンディスプレイ表示信号について

	本機への信号入力		オンスクリーンディスプレイ表示信号の出力	
	映像信号入力端子（黄）	S映像信号入力端子	映像信号モニター出力端子	S映像信号モニター出力端子
1	×	×	○	○
2	○	×	○	○
3	×	○	○	○
4	○	○	×	○

（○：信号有り　×：信号無し）　（○：オンスクリーン出力有り　×：オンスクリーン出力無し）

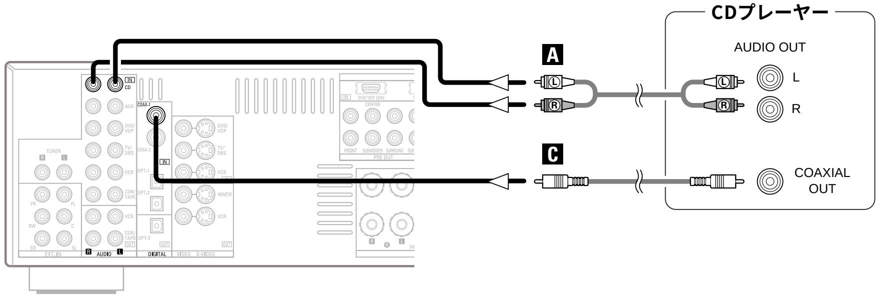
TV/DBSチューナーの接続のしかた

- ビデオ/Sビデオ映像端子に接続された信号は、コンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子には出力されません。（すべてのケーブルを接続する必要はありません。）
- デジタル音声を再生する場合は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。75Ωピンプラグケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 50ページ）。



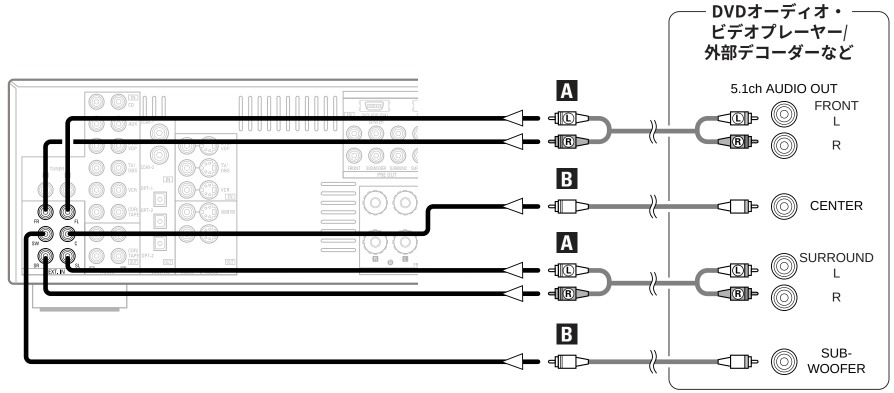
CDプレーヤーの接続のしかた

デジタル音声は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 50ページ）。



外部入力端子の接続のしかた

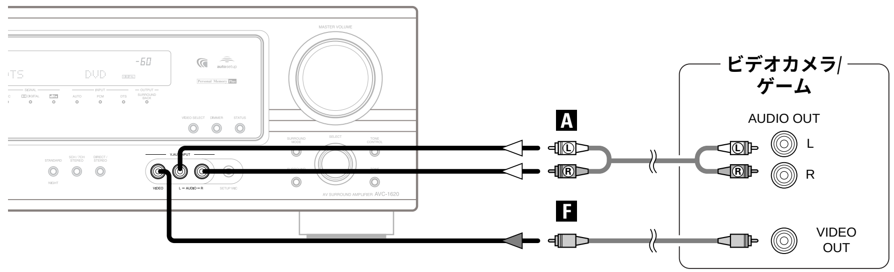
- 本機には5.1チャンネル用アナログ外部入力端子を備えています。この入力端子はハイビジョンのMUSE 3-1方式やDVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
- ビデオ信号の接続のしかたはDVDプレーヤーと同じです（☞ 15ページ）。
- 外部入力端子の設定については、25ページを参照してください。



メモ

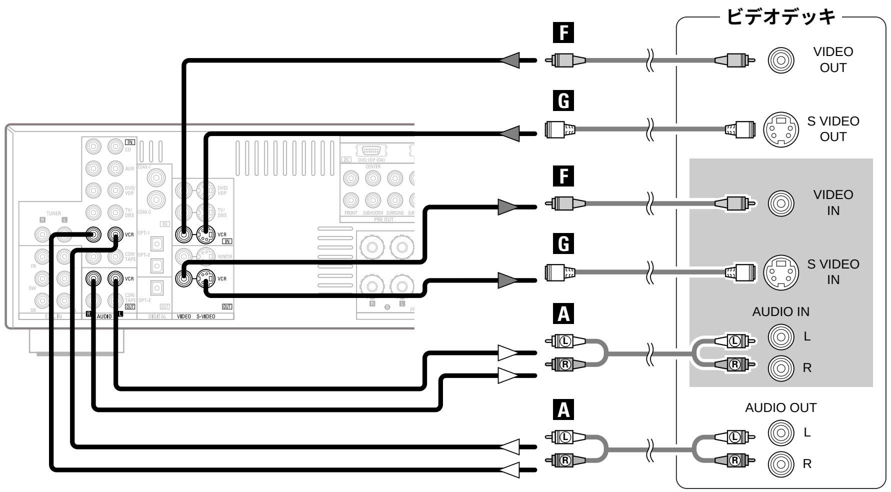
- ハイビジョン（MUSE 3-1方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ．ステレオケーブルを使用してください。

ビデオカメラ／ゲーム機の接続のしかた



ビデオデッキの接続のしかた

- ビデオ/Sビデオ映像端子に接続された信号は、コンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子には出力されません。（すべてのケーブルを接続する必要はありません。）
- アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。
- デジタル入力と出力の接続は、CD（MD）レコーダーと同じです。

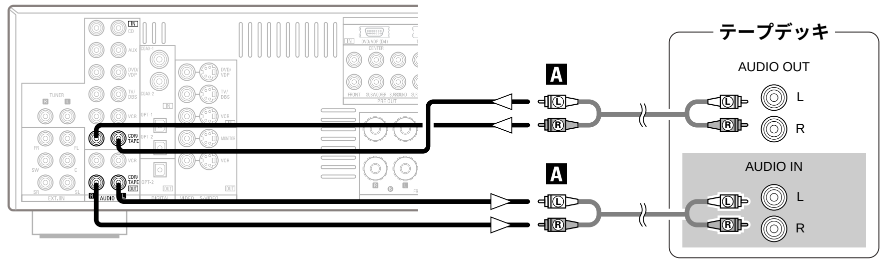


ご注意

- 本機を通して録画するときは再生ソースの機器のケーブルの種類と本機のVCR OUT端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
  【例】 VCR IN → S端子用接続ケーブル：VCR OUT → S端子用接続ケーブル
  VCR IN → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR OUT → 映像用75Ωピンプラグケーブル
- デジタル信号は、アナログ端子に出力されません。

《接続のしかた》

テープデッキの接続のしかた

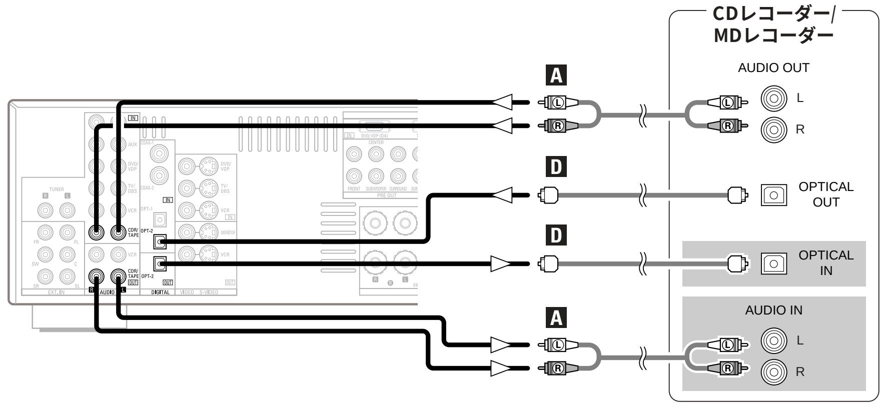


メモ

- ハム音や雑音が出るときは、音が出なくなるまでテープデッキを離してください。

CDレコーダー/MDレコーダーの接続のしかた

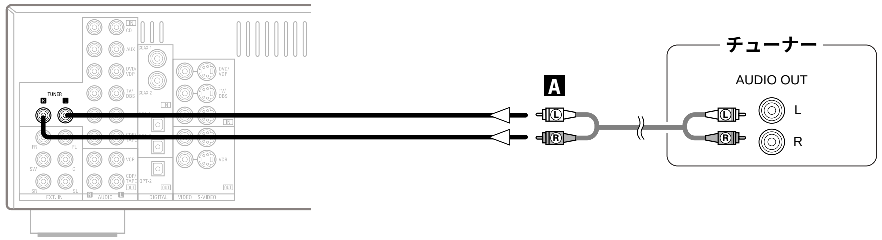
アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。



ご注意

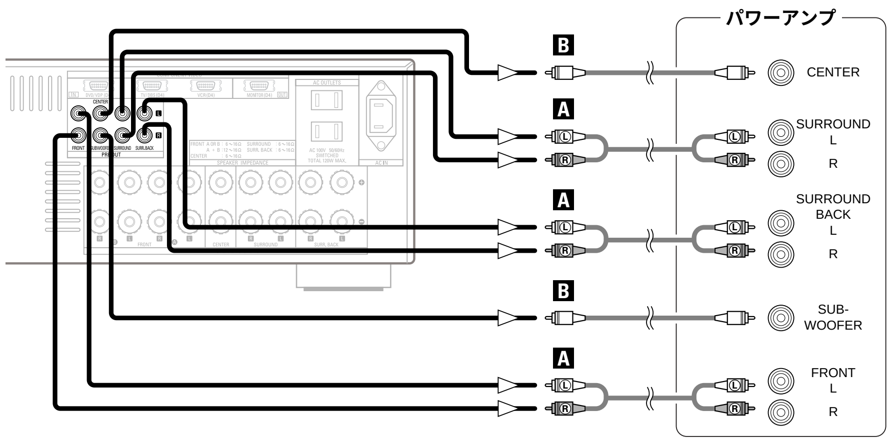
本機のリアパネルのOPTICAL-2 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL-2 IN端子以外に接続しないでください（☞ 50ページ）。

チューナーの接続のしかた



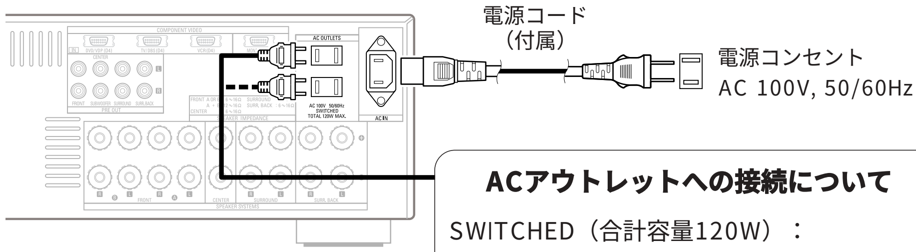
プリアウト端子の接続のしかた

- 市販のパワーアンプを使用してフロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックの音声をパワーアップする場合に使用します。
- サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。



《接続のしかた》

電源コードの接続のしかた



ACアウトレットへの接続について

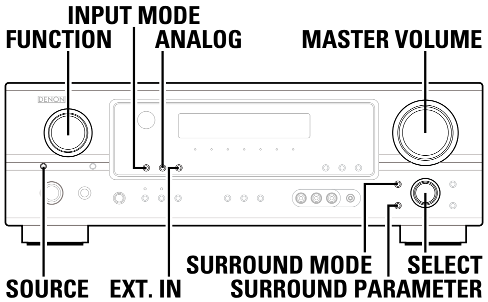
SWITCHED（合計容量120W）：
本体の電源ボタンと連動して電源がON/OFFします。またリモコンで電源をON/STANDBYした場合にも連動します。本体のスタンバイ中はACアウトレットはOFFとなります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

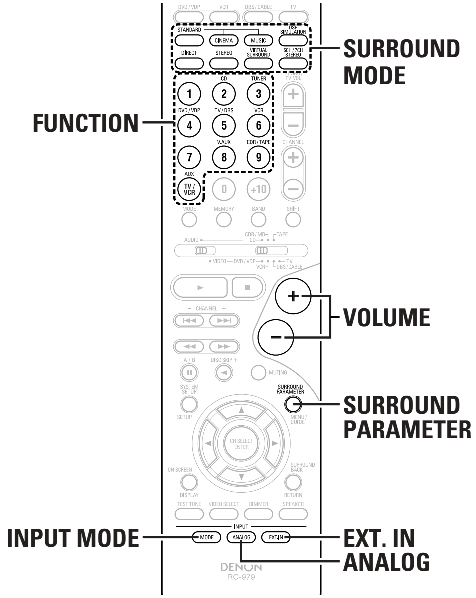
ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な差し込みは、雑音発生の原因となります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤーやレコードプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。

基本操作のしかた

再生のしかた

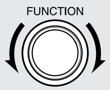




入力ソースを再生する

1 再生したい入力ソースを選ぶ。

【例】CD



（本体）

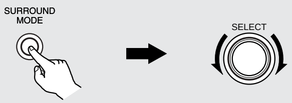


（リモコン）

※ 入力ソースにREC OUTを選択している場合は、**SOURCE** ボタンを押してから入力ファンクションを操作してください。

2 再生（サラウンド）モードを選ぶ。

【例】ステレオ



（本体）



（リモコン）

※ サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールを調整中に本体でサラウンドモードを選択する場合は、**SURROUND MODE** ボタンを押してから **SELECT** つまみを操作してください。

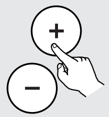
3 選択した機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

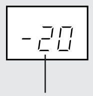
4 音量を調節する。



（本体）



（リモコン）



音量が主音量レベル表示に表示されます。

※ 音量は−70〜0〜18dBの範囲で1dBステップで調節できます。チャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋1dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。（この場合、音量の最大調整範囲は“ 18dB−チャンネルレベルの最大値 ”となります。）

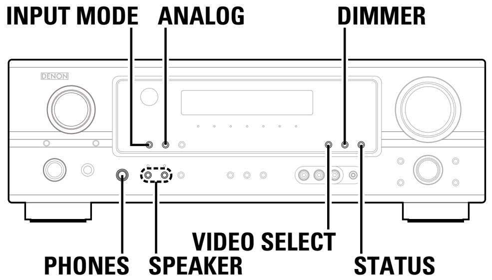
外部入力ソースを再生する

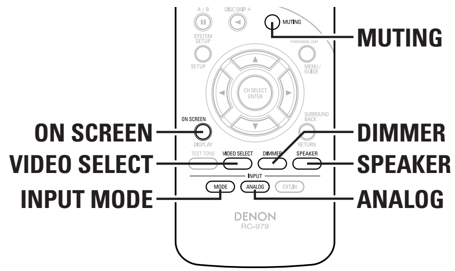
外部デコーダー用入力端子に入力されている信号をサラウンド回路を通さずにスピーカーシステムおよびプリアウト端子に出力します。

EXT. IN ボタンを押して、“ EXT. IN ” モードを選ぶ。

メモ

- 解除するときには、**INPUT MODE** ボタンまたは **ANALOG** ボタンを押して、再生したい入力モードに切り替えてください（☞ 25、27ページ）。
- 外部入力モードは、どの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。
- サブウーハーの出力レベルが高い場合には、**SURROUND PARAMETER** ボタンを押して、サラウンドパラメーターの“ SW ATT. ”を“ ON ”に設定してください。
- 入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモードの設定はできません。
- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。また、入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。





一時的に音を消す（ミューティング）

MUTING ボタンを押す。

※ ミューティングレベルが調整できます（☞ 53ページ）。

メモ

- 解除するときには、次のいずれかの操作をしてください。
  ① もう一度 **MUTING** ボタンを押す。
  ② 本体の **MASTER VOLUME** つまみを回すか、リモコンの **VOLUME** ボタンを押して、音量を調節する。

ヘッドホンで音を聴く

PHONES ジャックにヘッドホンを差し込む。

※ ヘッドホンを差し込むと、自動的にスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げ過ぎないように注意してください。

今聴いている音に好きな映像を組み合わせる

好きな映像が出るまで VIDEO SELECT ボタンを押す。

IN=V SOURCE

メモ

- 解除するときには、次のいずれかの操作をしてください。
  ① もう一度 **VIDEO SELECT** ボタンを押して、“ SOURCE ” を選ぶ。
  ② 入力ソースをビデオ系入力に切り替える。

フロントスピーカーを選ぶ

SPEAKER A または B ボタンを押す。

※ フロントスピーカーは、リモコンの **SPEAKER** ボタンでも選ぶことができます。

《基本操作のしかた》

今再生しているプログラムソースなどを確認する

■ オンスクリーンディスプレイ上で確認する

ON SCREEN ボタンを押す。

- ボタンを押すたびに、モニターテレビの画面上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。
  OSD-1：入力信号
  OSD-2：入出力設定
  OSD-3：オートサラウンドモード

■ ディスプレイ上で確認する

STATUS ボタンを押す。

- ボタンを押すたびに、ディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

■ ディマー機能の使いかた

DIMMER ボタンを押す。

- ボタンを押すたびにディスプレイの明るさが3段階に変化し、最後には消すことができます。

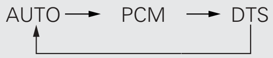
入力モードについて

本機には、入力された音声信号の種類を自動で識別するAUTOモードを使用しますが、入力された音声信号に対し、手動で切り替えるモードも装備しています。

■ AUTO、PCM、DTSモードの選択

INPUT MODE ボタンを押す。

※ ボタンを押すたびに、モードが下記の順序で切り替わります。



AUTO（オールオートモード）：
選択された入力ソースごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替え、再生するモードです。デジタル入力の設定（☞ 50ページ）をしているソースで選択することが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で、自動的にデコードや再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。

PCM（PCM信号再生専用モード）：
PCM信号が入力されたときだけデコードや再生をおこないます。
ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

DTS（DTS信号再生専用モード）：
DTS信号が入力されたときだけデコードや再生をおこないます。

■ ANALOGモードの選択

ANALOG　ボタンを押して、アナログ入力に切り替える。

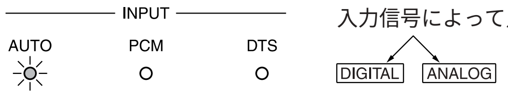
ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）：
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

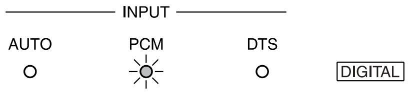
- DTS方式で記録されたCDやLDをANALOGモードまたはPCMモードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。
  DTS対応のソースを再生する場合は、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、入力モードを“ AUTO ”または“ DTS ”に設定してください。
- AUTOモードでDTSを再生した場合、再生のはじめやサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、“ DTS ” モードで再生してください。

■ 入力モードの表示

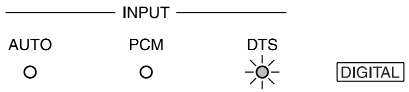
● AUTOモード時



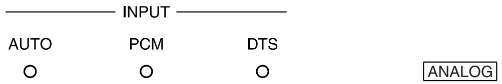
● DIGITAL PCMモード時



● DIGITAL DTSモード時

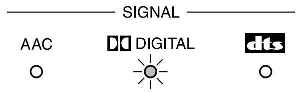


● ANALOGモード時

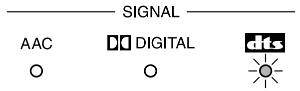


■ 入力信号の表示

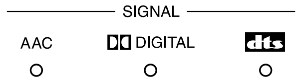
● DOLBY DIGITAL



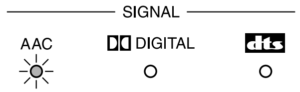
● DTS



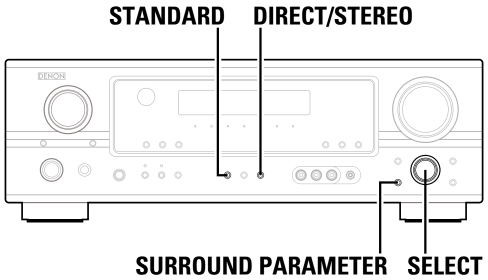
● PCM

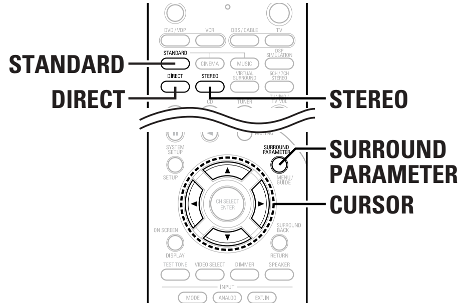


● AAC



※ デジタル信号が正常に入力されると“ DIGITAL ”が点灯します。点灯しない場合はデジタル入力機器のセットアップ（☞ 50ページ）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。
※ オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに“ DIGITAL ”が点灯しますが音声は聞けません。
※ DVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。





サラウンド再生のしかた

より高音質な再生をおこなう

本機には音楽専用の2チャンネル再生モードとして、2つのモードを装備しています。
お好みに合わせてご使用ください。

■ ダイレクトモード

音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らずストレートに伝送されるので、より良い音質で再生ができます。

本体の　DIRECT/STEREO　ボタンまたはリモコンの DIRECT ボタンを押して、ダイレクトモードを選ぶ。

■ ステレオモード

トーン調整をして自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

本体の　DIRECT/STEREO　ボタンまたはリモコンの STEREO ボタンを押して、ステレオモードを選ぶ。

ドルビーサラウンドプロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モードで音を聴く

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。

1 **STANDARD ボタンを押して、“ DOLBY PLⅡx ” モードを選ぶ。**

● ドルビープロロジック表示が点灯します。



※ ボタンを押すたびに下記のようにモードが切り替わります。

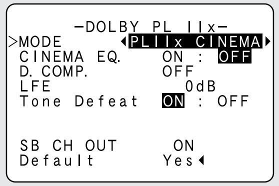
DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 **プログラムソースを再生する。**

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。



4 **SELECT つまみを回すかCURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、再生モードを選ぶ。**

◎ “ SB CH OUT ” が “ ON ” のとき
（システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが “ Small ” または “ Large ” に設定されているとき）

ディスプレイ

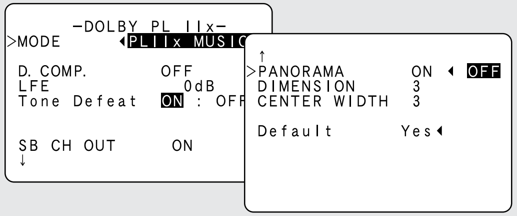
ディスプレイ	
MODE PLⅡx C	（プロロジック Ⅱx シネマモード）
MODE PLⅡx M	（プロロジック Ⅱx ミュージックモード）
MODE PLⅡx G	（プロロジック Ⅱx ゲームモード）

◎ “ SB CH OUT ” が “ OFF ” のとき
（システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが “ None ” に設定されているとき）

ディスプレイ	
MODE PLⅡ C	（プロロジック Ⅱ シネマモード）
MODE PLⅡ M	（プロロジック Ⅱ ミュージックモード）
MODE PLⅡ G	（プロロジック Ⅱ ゲームモード）
MODE DOLBY PL	（ドルビープロロジックモード）

《基本操作のしかた》

5 SURROUND PARAMETER ボタン、CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、各パラメーターを選ぶ。



※ 各パラメーターについては、“サラウンドパラメーターについて①”（☞ 29ページ）を参照してください。

6 SELECT つまみを回すか CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各サラウンドパラメーターを設定する。

※ サラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。
設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

メモ

- ドルビーサラウンドプロロジックは“NORMAL”、“PHANTOM”、“WIDE”および“3CH. LOGIC”の4つのモードがありますが、これらはオートセットアップ（☞ 17ページ）やシステムセットアップの“スピーカーを設定する”（☞ 55ページ）をおこなうことにより自動的に設定されます。

■ サラウンドパラメーターについて ①

ドルビーサラウンドプロロジックⅡxおよび
ドルビーサラウンドプロロジックⅡモード：

- **CINEMAモード：**
ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

- **MUSICモード：**
ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽など）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

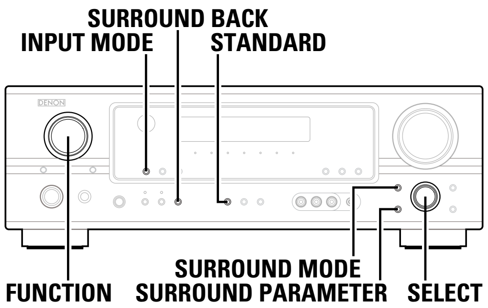
PANORAMA：
フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

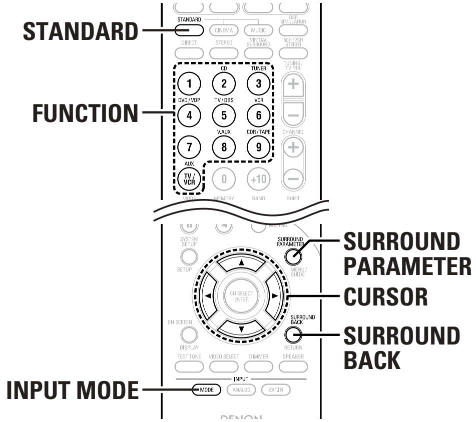
DIMENSION：
音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

CENTER WIDTH：
センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。

- **GAMEモード：**
従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。
GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

- **PLモード：**
従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。





DTS NEO：6モードで音を聴く

1 **STANDARD ボタンを押して、“ DTS NEO：6 ” モードを選ぶ。**

※ ボタンを押すたびに下記の順序でモードが切り替わります。

DOLBY PLIIx ←——→ DTS NEO:6

2 **プログラムソースを再生する。**

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。

4 **SELECT つまみを回すか CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、再生モードを選ぶ。**

5 **SURROUND PARAMETER ボタン、CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、各パラメーターを選ぶ。**

※ 各パラメーターについては、“ サラウンドパラメーターについて② ”（☞ 30ページ）を参照してください。

6 **SELECT つまみを回すかCURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各サラウンドパラメーターモードを設定する。**

※ サラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。
設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

《基本操作のしかた》

■ サラウンドパラメーターについて ②

DTS NEO：6モード：

● **CINEMAモード：**
映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL/SR/SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

● **MUSICモード：**
主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL/FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化が無く、更にセンター（C）とサラウンド（SL/SR/SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

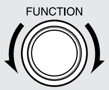
CNTR. IMAGE（センターイメージ）**：**
センターチャンネルの広がりを調整するパラメーターです。

《基本操作のしかた》

ドルビーデジタルモードおよび DTSサラウンドモードで音を聴く（デジタル入力のみ）

1 **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている入力ソースを選ぶ（☞ 50ページ）。**

【例】DVD/VDP



（本体）



（リモコン）

2-1 **【ドルビーデジタルモードの場合】**
INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“ AUTO ”に設定する。

2-2 **【DTSサラウンドモードの場合】**
INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“ AUTO ”または“ DTS ”に設定する。

3 **STANDARD ボタンを押して、再生するプログラムソースに合わせて“ ドルビーデジタルモード ”または“ DTSサラウンドモード ”を選ぶ。**

※ この操作を本体でおこなう場合は、**SURROUND MODE** ボタンを押してから **SELECT** つまみを回して、モードを選ぶこともできます。

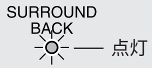
4 **DOLBY DIGITAL または dts マークの付いたプログラムソースを再生する。**

- ドルビーデジタルソース再生中はドルビーデジタル表示が点灯します。
- DTSサラウンドソース再生中はDTS表示が点灯します。



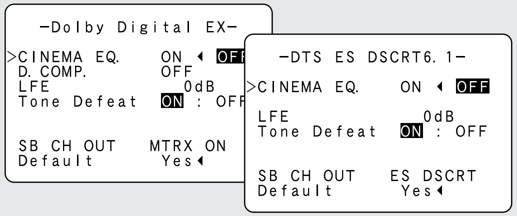


※ **SURROUND BACK** ボタンでサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。
サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示が点灯します。



5 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

- サラウンドパラメーター画面が表示されます。



6 **SURROUND PARAMETER ボタン、CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、各パラメーターを選ぶ。**

※ 各パラメーターについては、“ サラウンドパラメーターについて③ ”（☞ 32ページ）を参照してください。

7 **SELECT つまみを回すか CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各サラウンドパラメーターを設定する。**

※ サラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。
設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

メモ

- “ Default ” を選択して **CURSOR** ◁ ボタン を押すと、自動的に“ CINEMA EQ. ” と“ D.COMP. ” が“ OFF ” に、“ LFE ” と“ TONE ” が初期値に設定されます。

■ サラウンドパラメーターについて ③

CINEMA EQ.（シネマイコライザー）：
映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジックⅡx、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、DTS NEO：6およびMPEG-2 AACモードのみ有効です。）

D.COMP.（ダイナミックレンジコンプレッション）：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。（ドルビーデジタルならびにDTSで録音されたプログラムソース再生時のみ有効です。）“ OFF ”、“ LOW ”、“ MID ”（MIDDLE）および“ HIGH ” の4つのパラメーターから選択します。
このパラメーターは、DTSソースを再生する場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）：
プログラムソースと可変範囲：

1. ドルビーデジタル	−10dB ～ 0dB
2. DTSサラウンド	−10dB ～ 0dB
3. MPEG-2 AAC	−10dB ～ 0dB

※ **ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。**
※ **DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。**
※ **DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを−10dBに設定するようおすすめします。**

TONE（トーン）：
トーンコントロールの調整をおこないます。
ダイレクト以外のサラウンドモードで設定が可能です。サラウンドモードごとに設定が可能です。（Dolby/DTS/AACサラウンドモードは共通です。）

SB CH OUT（サラウンドバックチャンネルアウト）：
（1）マルチチャンネルソースの場合
- **OFF：**
  サラウンドバックスピーカーを使用しない再生をおこないます。
- **NON MTRX：**
  サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
  サラウンドバックチャンネルにはL/Rチャンネルともにサラウンドチャンネルと同じ信号を出力します。
- **MTRX ON：**
  サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
  デジタルマトリクス処理をおこないサラウンドバックチャンネルを再生します。
- **ES MTRX：**
  dts信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
- **ES DSCRT：**
  dts信号でディスクリート6.1chソースである認識番号が含まれている場合に、ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
- **PLⅡx Cinema：**
  PLⅡx Cinemaモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
  PLⅡx Cinemaモードで再生する場合は、システムセットアップでサラウンドバックスピーカーを“ 2sp ” に設定してください。
- **PLⅡx Music：**
  PLⅡx　Musicモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
  PLⅡx　Musicモードで再生する場合は、システムセットアップでサラウンドバックスピーカーを“ 1sp ” または“ 2sp ” に設定してください。

（2）2チャンネルソースの場合
- **OFF：**
  サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。
- **ON：**
  サラウンドバックを使用する再生をおこないます。

※ **SURROUND BACK** ボタンでも操作できます。

《基本操作のしかた》

■ ダイアログノーマライゼーションについて

ドルビーデジタルプログラムソースの再生中は、ダイアログノーマライゼーション機能が自動的に動作します。
この機能は、ドルビーデジタルの基本機能であり、プログラムソースごとに異なるレベルで記録されている信号のレベル（標準レベル）を自動的に補正する作用があります。
本内容は、本体の **STATUS** ボタンまたはリモコンの **ON SCREEN** ボタンで確認できます。

ディスプレイ

`OFFSET    - 4dB`

数字は再生中のプログラムを標準レベルに
補正をした場合の補正レベルを表わします。

■ 入力信号の確認のしかた

リモコンの **ON SCREEN** ボタンを押すと、入力信号が確認できます。

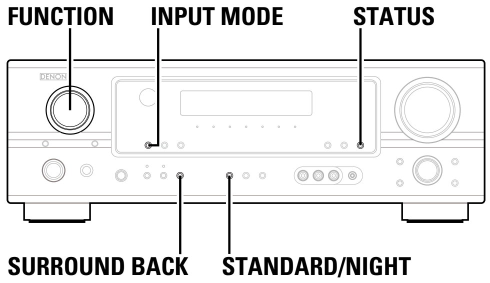
SIGNAL：
DTS、DOLBY DIGITAL、PCMなどの信号の種類を表示します。

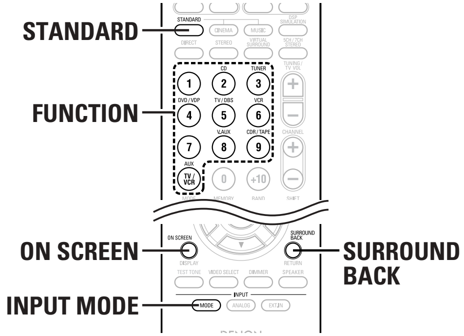
fs：
入力信号のサンプリング周波数を表示します。

FORMAT：
入力信号のチャンネル数を表示します。
“ フロントのチャンネル数/サラウンドのチャンネル数/LFEの有無 ”
ドルビーサラウンドで記録された2チャンネル信号の場合、“ SURROUND ” を表示します。

OFFSET：
ダイアログノーマライゼーションのオフセット値を表示します。

FLAG：
入力信号に記録されている特別な認識信号を表示します。
サラウンドバックチャンネルをマトリクス処理する場合は“ MATRIX ”、ディスクリート処理する場合は“ DISCRETE ” を表示します。
認識信号が記録されていない場合は表示しません。



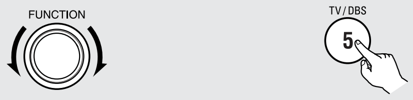


AACサラウンドモードで音を聴く（デジタル入力のみ）

AACサラウンドモードはサラウンドパラメーター画面で、SB CH OUT（サラウンドバックチャンネル出力）の設定により7.1チャンネル再生をおこなうことができます。

1 **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている入力ソースを選ぶ（☞ 50ページ）。**

【例】TV/DBS

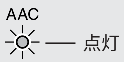


（本体）　（リモコン）

2 **INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“ AUTO ”に設定する。**

3 **AACのプログラムソースを再生する。**

- AACソース再生中は、AAC表示が点灯します。



4 **【5.1チャンネルの再生をおこなう場合】STANDARD ボタンを押して、“ AACサラウンドモード ”を選ぶ。**

※ 5.1chのプログラムソースが入力されているとき、AACサラウンドモードは“ MPEG2 AAC ”と表示されます。

メモ

- AACの2チャンネルソースが入力されているときは、プロロジックⅡxモードになります。
- AACソースに対して、DTS NEO：6モードでの再生はできません。
- AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が“ AAC ”に設定されていることを確認してください。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- AACのプログラムソースは、上記のサラウンドモード以外でも使用できます。お好みに合わせて各種サラウンドモードをお楽しみください。
- BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

《基本操作のしかた》

ナイトモードで音を聴く

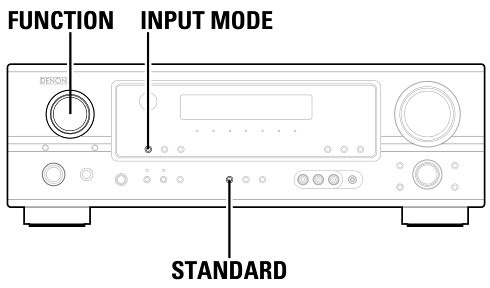
夜または低い音量で聴くときにナイトモードにすると、聴きやすくなります。

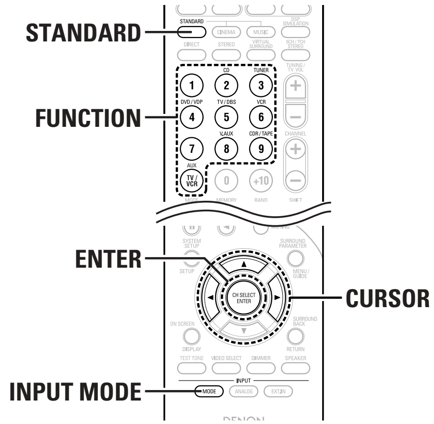
NIGHT ボタンを数秒間押し続けて、“ NIGHT MODE ON ”に設定する。

メモ

- 解除するときは、もう一度 **NIGHT** ボタンを押し続けてください。
- ドルビーデジタルまたはDTSサラウンドで記録されたプログラムソースの再生時のみ、ナイトモードの設定ができます。（DTSソースの場合は、D.COMP対応ソフトのみ設定できます。）

《基本操作のしかた》



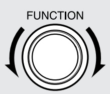


オーディオディレイを調整する

- DVDなどの映像ソフトを視聴しているときに、モニター画面の映像が音声に対して遅れていると感じる場合があります。このような場合には、オーディオディレイを調整し、音声を遅らせることで映像とのタイミングを合わせます。
- オーディオディレイの設定値は、設定した入力ソースごとに記憶します。
- システムセットアップでオーディオディレイを調整することもできます（☞ 52ページ）。

1 入力ソースを選ぶ。

【例】DVD



（本体）



（リモコン）

2 INPUT MODE ボタンを押して、入力モードを“AUTO”に設定する。

3 STANDARD ボタンを押して、“ドルビー/DTS サラウンドモード”を選ぶ。

4 プログラムソース（DVDなど）を再生する。

5 CURSOR △ ボタンを押す。

- オーディオディレイ調整画面に切り替わります。

6 CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、ディレイタイム（0ms ～ 200ms）を設定する。

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整してください。

7 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

メモ

- 外部入力モード時およびアナログ入力時のダイレクトモードおよびステレオモードで再生中、オーディオディレイは効きません。

DENONオリジナルサラウンドについて

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。7通り用意されたサラウンドモードを再生するプログラムソースに合わせて選択して、パラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

各サラウンドモードとその特長

1	**5CH/7CH STEREO**	サラウンドおよびサラウンドバック信号のLチャンネルにはフロントLチャンネルの信号、サラウンドおよびサラウンドバック信号のRチャンネルにはフロントRチャンネルの信号を出力し、センターチャンネルにはLチャンネルとRチャンネルの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。
2	**MONO MOVIE （注）**	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
3	**ROCK ARENA**	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	**JAZZ CLUB**	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	**VIDEO GAME**	ビデオゲームで楽しみたいときに使用します。
6	**MATRIX**	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドチャンネルからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
7	**VIRTUAL**	フロント2チャンネルだけのスピーカーを使用して、立体感のあるサラウンド再生を楽しみたいときに選択します。

※ 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

注： モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

《基本操作のしかた》

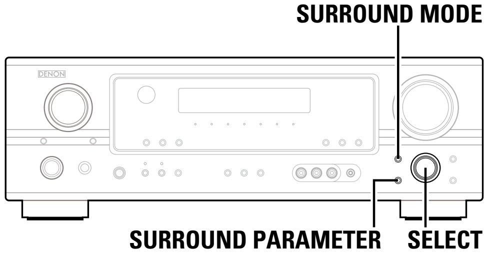
■ パーソナルメモリープラスについて

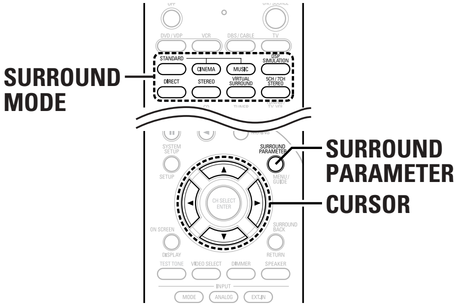
本機には、入力ファンクションごとに選択された、サラウンドモードなどを自動的に記憶されるパーソナルメモリープラスという機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるごとに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

※ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容

① サラウンドモード
② 入力モード選択機能
サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールなどの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

《基本操作のしかた》

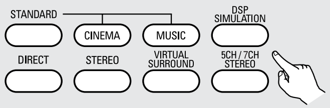




DSPサラウンドシュミレーションを設定する

■ サラウンドモードとサラウンドパラメーターをリモコンで操作する場合

1 **入力ソースに合わせてサラウンドモードを選ぶ。**



（リモコン）

※ **DSP SIMULATION** ボタンを押すたびに、サラウンドモードが次のように切り替わります。

→ MONO MOVIE → ROCK ARENA → JAZZ CLUB → VIDEO GAME → MATRIX →

2 **SURROUND PARAMETER ボタンを押す。**

● サラウンドパラメーター画面を表示します。

```
      −ROCK ARENA−
>ROOM SIZE    ◂medium▸
 EFFECT        10

 Tone Defeat   ON : OFF

 SB CH OUT      ON
 Default       Yes◂
```

3 **SURROUND PARAMETER ボタン、CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、各パラメーターを選ぶ。**

※ 各パラメーターについては、“ サラウンドパラメーターについて④ ”（☞ 37ページ）を参照してください。

4 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各サラウンドパラメーターを設定する。**

※ サラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。
設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

メモ

- “ Default ” を選択して **CURSOR** ◁ ボタンを押すと、自動的に “ CINEMA EQ. ”、“ D.COMP. ” が “ OFF ” に設定されます。また、“ ROOM SIZE ” は “ medium ”、“ EFFECT LEVEL ” は “ 10 ”、“ DELAY TIME ” は “ 30ms ”、“ LFE ” は “ 0dB ” にそれぞれ設定されます。
- “ ROOM SIZE ” は各サラウンドモードにおける広がり感の効果を音場の大きさで表現したものです。再生する部屋の大きさを表わすものではありません。
- PCMデジタル信号またはアナログ信号を “ DOLBY PRO LOGICⅡx ” または “ DTS NEO : 6 ” のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
  また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

■ サラウンドモードとサラウンドパラメーターを本体で操作する場合

1 SELECT つまみを回して、サラウンドモードを選ぶ。

◎ 時計周り：

DIRECT → STEREO → DOLBY PRO LOGIC IIx → DTS NEO:6 → 5CH/7CH STEREO → MONO MOVIE → ROCK ARENA → JAZZ CLUB → VIDEO GAME → MATRIX → VIRTUAL SURROUND → DIRECT

◎ 反時計周り：

DIRECT → VIRTUAL SURROUND → MATRIX → VIDEO GAME → JAZZ CLUB → ROCK ARENA → MONO MOVIE → 5CH/7CH STEREO → DTS NEO:6 → DOLBY PRO LOGIC IIx → STEREO → DIRECT

※ サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールを調整中にサラウンドモードを選択する場合は、**SURROUND MODE** ボタンを押してから **SELECT** つまみを操作してください。

2 SURROUND PARAMETER ボタンを押して、設定したいパラメーターに合わせる。

● サラウンドパラメーター画面が表示されます。

※ 設定できるパラメーターはサラウンドモードにより異なります（☞ 71ページ）。

3 SELECT つまみを回して設定する。

※ サラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。
設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

メモ

● PCMデジタル信号またはアナログ信号を“ DOLBY PRO LOGICIIx ”または“ DTS NEO：6 ”のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

■ サラウンドパラメーターについて ④

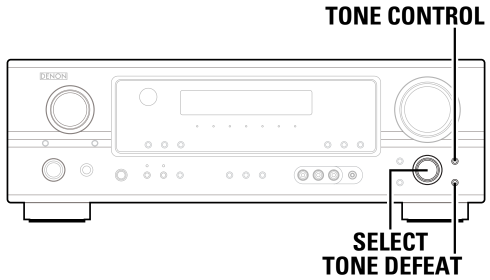
ROOM SIZE（ルームサイズ）：
音場の大きさを設定します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ” および “ large ” の5つのパラメーターがあります。
“ small ” では小さな音場空間、“ large ” では大きな音場空間を再現します。

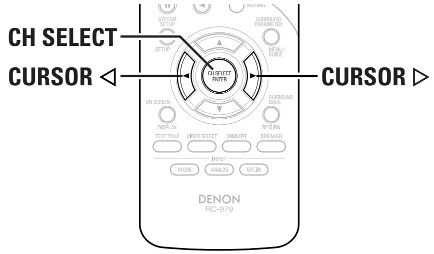
EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）：
サラウンドの効果の大きさを設定します。
“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイタイム）：
マトリクスモードに限り、“ 0ms ” ～ “ 110ms ” の範囲でディレイタイムを設定できます。

SW ATT.：
外部入力モードでの再生時に、サブウーハーチャンネルのレベルを下げるパラメーター“ SW ATT. ”を追加しました。ご使用になるプレーヤーによってはスーパーオーディオCDを再生したときに、SWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。このときには “ SW ATT. ” を “ ON ” に設定してください。
DENON製プレーヤーの場合は初期設定でご使用ください。

TONE CONTROL（トーンコントロール）：
トーンコントロールの調整をおこないます。
ダイレクト以外のサラウンドモードで設定ができます。





トーンコントロールを設定する

■ 音質を調整するとき

1 **TONE CONTROL ボタンを押す。**

※ ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

BASS ←→ TREBLE

2 **調整したいボリウム名（“ BASS ” または “ TREBLE ”）を表示させた状態で、SELECT つまみを回してレベルを調整します。**

◎ 強くするとき：
右へ回す（＋12dBまで2dBステップで調整可能）。
◎ 弱くするとき：
左へ回す（ー12dBまで2dBステップで調整可能）。

メモ

- トーンコントロールは、ダイレクトモードでは動作しません。
- トーンコントロールの設定はフロントスピーカーのみおこなえます。
- トーンコントロールをおこなった場合は、主音量レベルを18dBまで調整できなくなります。（主音量レベルの最大値はサラウンドモードによって異なります。）

■ 音質を調整しないとき

信号が音質調整回路（BASS、TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

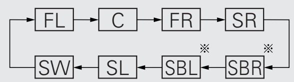
TONE DEFEAT ボタンを押して、トーンディフィートオンモードに設定する。

チャンネルレベルを設定する

オートセットアップやテストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **CH SELECT ボタンを押して、レベル調節したいスピーカーを選ぶ。**

※ ボタンを押すたびに、下記の順序でチャンネルが切り替わります。



※ “ スピーカーを設定する ”（☞ 55ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1sp ”に設定した場合は“ SB ”になります。

2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、選んだスピーカーのレベルを調節する。**

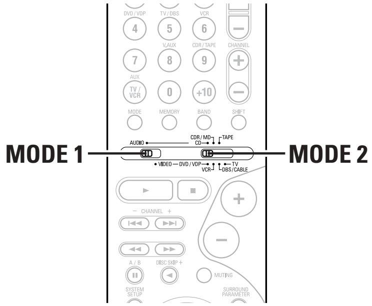
※ サブウーハー（SW）のレベルはー12dBを設定後、再び **CURSOR** ◁ ボタンを押すと“ OFF ”に設定することができます。

メモ

- サブウーハーチャンネルの音量レベルを“ OFF ”に設定したときは、システムセットアップの設定に関わらず、フロントチャンネル（左/右）からLFEを含む低域信号が出力されます。
小型のフロントスピーカーを使用される場合は、低域再生能力を超え、歪みが発生することがありますので“ OFF ”に設定しないでください。

応用操作のしかた

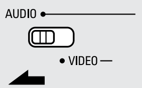
リモコンの操作のしかた



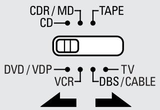
DENON製オーディオ機器を操作する

- 操作する前に各機器の電源を入れてください。
- お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

1 MODE 1 スイッチを " AUDIO " の位置にする。



2 MODE 2 スイッチを操作したい機器（CD、CDR/MDまたはTAPE）の位置にする。

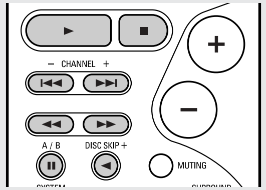


3 オーディオ機器を操作する。

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

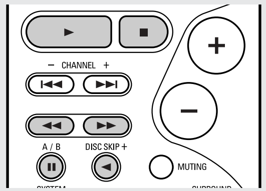
4

1. CDプレーヤー（CD）、CDレコーダーまたはMDレコーダー（CDR/MD）のシステムボタン



►	：再生
■	：停止
I◄◄, ►►I	：オートサーチ（頭出し）
◄◄, ►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II	：一時停止
DISC SKIP +	：ディスクの切り替え（CDチェンジャーのみ）

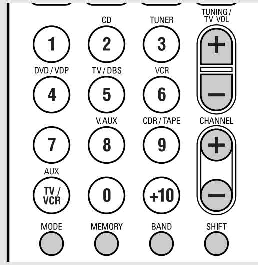
2. テープデッキ（TAPE）のシステムボタン



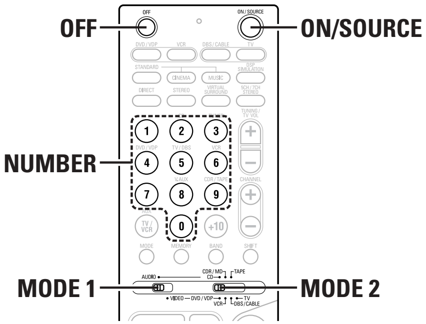
►	：正方向再生
■	：停止
◄◄	：巻き戻し
►►	：早送り
A/B	：A/Bデッキの切り替え
◄	：逆方向再生

3. チューナーのシステムボタン

※ **MODE 1** スイッチが " AUDIO " の位置のときに操作できます。
※ **MODE 2** スイッチが " CD "、" CDR/MD " または " TAPE "のどの位置でも操作することができます。



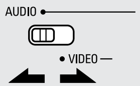
TUNING +, –	：チューニングのアップ/ダウン
CHANNEL +, –	：プリセットチャンネルのアップ/ダウン
SHIFT	：プリセットチャンネルの切り替え
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
MEMORY	：プリセットメモリー
MODE	：オート/マニュアルの切り替え



プリセットメモリーをおこなう

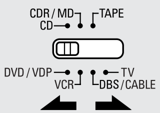
お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。但し、**機種によっては操作できないものや正常に動作しないボタンがあります。**

1　MODE 1 スイッチを“ AUDIO ”または“ VIDEO ”の位置にする。



※ CD、CDR/MDおよびTAPEをプリセットメモリーする場合は、“ AUDIO ”の位置にしてください。
※ DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEおよびTVをプリセットメモリーする場合は、“ VIDEO ”の位置にしてください。

2　MODE 2 スイッチをメモリーしたい機器の位置にする。



3　ON/SOURCE ボタンと OFF ボタンを同時に押す。
- 送信表示が点滅します。

4　プリセットコード表（☞ 41〜44ページ）を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字（3桁）を入力する。

5　【続けて他の機器のメモリーをおこなう場合】操作1〜4をくり返しおこなう。

メモ

- プリセットメモリー中でも押したボタンの信号は送信されますので、メモリー中は誤動作防止のためリモコン受光部を覆ってください。
- リモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。
- **CDR/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーすることができません。**

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコード

- CD、TAPE ……………DENON
- CDR/MD ……………DENON (CDR)
- DVD/VDP ……………DENON (DVD)
- DBS/CABLE ……………ABC (ABLE)
- TV ……………HITACHI
- VCR ……………HITACHI

■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード番号
DVD-550/900/1000/1400/ DVD-1500/1910/2200/2800/ DVD-2900/2910/3800/3910/ DVD-A11/A1/A1XV	111
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	014

※ 工場出荷時の初期設定は『111』です。

■ 各メーカーのプリセットコードの組み合わせ

※ *[　]は、工場出荷時のプリセットコードを示します。

DVD

Denon	014, ***[111]**
Aiwa	009
Hitachi	010
JVC	006, 011
Konka	012, 013
Magnavox	005
Mitsubishi	004
Panasonic	014
Philips	005, 015, 016, 017
Pioneer	003, 008
Sanyo	018
Sony	002, 019, 020
Toshiba	001, 021, 022
Zenith	023

VDP

Denon	028, 029, 112
Magnavox	026
Mitsubishi	028
Panasonic	029, 030
Philips	026
Pioneer	028, 031
RCA	032
Sony	033, 034, 035, 036

VCR

Admiral	081
Aiko	095
Aiwa	009
Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
Alba	055
Amstrad	009
ASA	042
Asha	087
Audio Dynamic	005, 085
Audiovox	088
Beaumark	087
Broksonic	086, 093
Calix	088
Candle	006, 087, 088, 089, 090
Canon	049, 057
Capehart	025, 055, 056, 071
Carver	015
CCE	095
Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
Craig	007, 087, 088, 091, 115
Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
Cybernex	087
Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
Daytron	025, 055
DBX	005, 085
Dumont	053
Dynatech	009
Electrohome	001, 088, 097
Electrophonic	088
Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
Go Video	047, 048
Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
Gradiente	094
Grundig	042
Harley Davidson	094
Harman Kardon	040, 062
Hi-Q	091
Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, ***[108]**, 109, 110, 111
JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
Jensen	013, 026
JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
Kodak	088
Lloyd	009, 094
LXI	088
Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
Magnin	087
Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
Marta	088
MEI	049
Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
MGA	001, 017, 027, 041, 097
MGN Technology	087
Midland	011
Minolta	013, 023
Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
Motorola	081
Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
MTC	009, 087, 094
Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
NAD	038
NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
Nikko	088
Noblex	087
Optimus	081, 088
Optonica	021
Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
Perdio	009
Pentax	009, 013, 023, 058, 090

Philco	015, 016, 049
Philips	015, 021, 042, 049, 105
Pilot	088
Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
Portland	025, 055, 090
Proscan	063, 080
Pulsar	060
Quartz	033
Quasar	034, 035, 049
Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
Radix	088
Randex	088
RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
Ricoh	055
Salora	033, 041
Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
Sanky	081
Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
SBR	042
Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
Sentra	055
Sharp	001, 002, 021, 097
Shogun	087
Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
STS	023
Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
Symphonic	009, 094
Tandy	009
Tashiko	009, 088
Tatung	004, 026, 030
Teac	004, 009, 026, 094
Technics	024, 049
Teknika	009, 010, 022, 049, 088, 094
TMK	087, 092
Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
Totevision	007, 087, 088
Unirech	087
Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
Victor	005, 045, 046, 085
Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
Videosonic	007, 087
Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
XR-1000	094
Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Zenith	060, 078, 079

TV

Admiral	045, 121
Adventura	122
Aiko	054
Akai	016, 027, 046
Alleron	062
A-Mark	007
Amtron	061
Anam	006, 007, 036
Anam National	061, 147
AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
Archer	007
Audiovox	007, 061
Bauer	155
Belcor	047
Bell & Howell	045, 118
Bradford	061
Brockwood	003, 047
Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
Capehart	003
Celebrity	046
Circuit City	003
Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
Concerto	031, 047, 049
Colortyme	003, 047, 049, 135
Contec	013, 051, 052, 061
Cony	051, 052, 061
Craig	004, 061
Crown	029
Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
Daytron	003, 049
Dimensia	044
Dixi	007, 015, 027
Electroband	046
Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
Elta	027
Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
Envision	038
Etron	027
Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
Formenti	155
Fortress	012
Fujitsu	004, 062
Funai	004, 062
Futuretech	004
GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
Grundy	062
Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, ***[134]**
Hitachi Pay TV	151

Brand	Code
Infinity	017, 071
Janeil	122
JBL	017, 071
JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
JCB	046
JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
Kawasho	018, 046
Kenwood	038, 056, 057
Kloss	010, 032
Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
KTV	074, 123
Loewe	071
Logik	144
Luxman	031
LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
Marantz	015, 017, 071, 080
Matsui	027
Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
Metz	160, 161, 162, 163
MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
Midland	125
Minutz	066
Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
Motorola	121, 147
MTC	031, 034, 039, 048, 095
NAD	008, 075, 076, 128
National	002, 036, 061, 147
National Quenties	002
NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
Nikko	054
NTC	054
Optimus	128
Optonica	011, 012, 093, 121
Orion	004, 139
Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
Pioneer	124, 128, 142
Portland	054
Price Club	095
Proscan	040, 044, 125
Proton	035, 051, 092, 129
Pulsar	042
Quasar	036, 037, 074, 141
Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
Realistic	014, 063, 093, 118
Saisho	027
Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
Sansui	139
Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
SBR	015
Schneider	015
Scott	062
Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
Siemens	013
Signature	045, 144
Simpson	050
Sony	043, 046, 138, 146, 150
Soundesign	030, 050, 062
Spectricon	007, 033
Squareview	004
Supre-Macy	032, 122
Supreme	046
Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
Symphonic	004, 148
Tandy	012, 121
Tatung	036, 124
Technics	037
Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
Tera	035, 129
Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
Universal	020, 066, 088
Victor	019, 073, 126
Video Concepts	016
Viking	032, 122
Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
Zonda	007

CABLE

Brand	Code
ABC	006, ***[007]**, 008, 009
Archer	010, 011
Century	011
Citizen	011
Colour Voice	012, 013
Comtronic	014
Eastern	015
Garrard	011
Gemini	030, 033, 034
General Instrument	030, 031, 032
Hytex	006
Jasco	011
Jerrold	009, 016, 017, 026, 032

Magnavox	018
Movie Time	019
NSC	019
Oak	000, 006, 020
Panasonic	001, 005
Philips	011, 012, 013, 018, 021
Pioneer	002, 003, 022
RCA	029
Regency	015
Samsung	014, 023
Scientific Atlanta	004, 024, 025
Signal	014
SL Marx	014
Starcom	009
Stargate	014
Teleview	014
Tocom	007, 016
TV86	019
Unika	011
United Artists	006
Universal	010, 011
Viewstar	018, 019
Zenith	027, 028

DBS (SATELLITE)

Alphastar	054
Chaparral	035, 036
Dishnet	053
Drake	037, 038
Echostar Dish	062, 066
GE	048, 055, 056
General Instruments	039, 040, 041
Grundig	070, 071, 072, 073
Hitachi	058, 059
Hughes Network	063, 064, 065, 069
JVC	057
Kathrein	074, 075, 076, 083
Magnavox	060
Nokia	070, 080, 084, 085, 086
Philips	060
Primestar	051
Proscan	048, 055, 056
RCA	048, 055, 056, 068
Realistic	042
Sierra I	036
Sierra II	036
Sierra III	036
Sony	049, 067
STS1	043
STS2	044
STS3	045
SRS4	046
Technisat	077, 078, 079, 081, 082
Toshiba	047, 050
Uniden	061

CD

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 035, 043
Burmster	002
Carver	003, 035
Emerson	004, 005, 006, 007
Fisher	003, 008, 009, 010
JVC	018, 019
Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
Magnavox	006, 015, 035
Marantz	016, 028, 035
MCS	016, 024
Onkyo	025, 027
Optimus	017, 020, 021, 022, 023
Philips	014, 032, 033, 035
Pioneer	006, 022, 030
Sears	006
Sony	023, 031
Teac	002, 009, 028
Technics	016, 029, 036
Wards	035, 037
Yamaha	038, 039, 040, 041
Zenith	042

CDR

Denon	***[111]**, 112
Philips	112

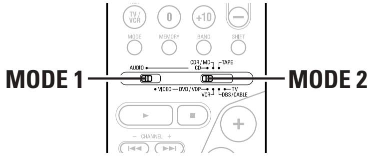
MD

Denon	113
Kenwood	003, 004
Onkyo	007
Sharp	005
Sony	006

TAPE

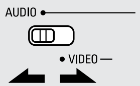
Denon	***[111]**
Aiwa	001, 002
Carver	002
Harman/Kardon	002, 003
JVC	004, 005
Kenwood	006
Magnavox	002
Marantz	002
Onkyo	016, 018
Optimus	007, 008
Panasonic	012
Philips	002
Pioneer	007, 008, 009
Sony	013, 014, 015
Technics	012
Victor	004
Wards	007
Yamaha	010, 011

《応用操作のしかた》



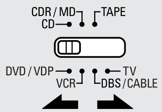
プリセットメモリーした機器を操作する

1 **MODE 1 スイッチを“ AUDIO ”または“ VIDEO ”の位置にする。**



※ CD、CDR/MDおよびTAPEをプリセットメモリーする場合は、“ AUDIO ” の位置にしてください。
※ DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEおよびTVをプリセットメモリーする場合は、“ VIDEO ” の位置にしてください。

2 **MODE 2 スイッチを操作したい機器の位置にする。**



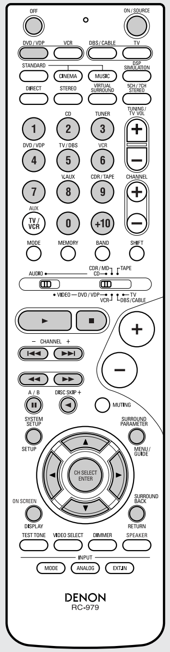
3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

メモ

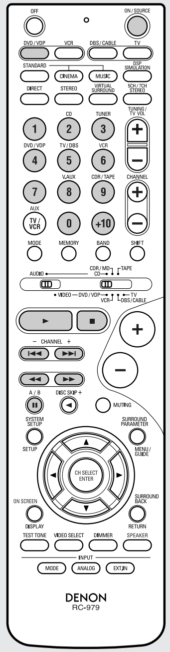
- オーディオ機器（CD、CDR、MDおよびTAPE）はDENON製オーディオ機器と同じボタンで操作することができます（☞ 39ページ）。
- テレビの音量操作とチャンネル切り替えは **MODE 2** スイッチが “ DVD/VDP ”、“ VCR ” または “ TV ” のどの位置でも操作することができます。

1. DVDプレーヤー（DVD）のシステムボタン



ON/SOURCE ：電源のオン/スタンバイ
OFF ：DENON製DVDプレーヤーの電源オフ
DVD/VDP ：DVDプレーヤーの電源オン/オフ
0 ~ 9, +10 ：ナンバーボタン
► ：再生
■ ：停止
I◄◄, ►►I ：オートサーチ（頭出し）
◄◄, ►► ：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II ：一時停止
DISC SKIP + ：ディスクの切り替え（DVDチェンジャーのみ）
SETUP ：セットアップ
MENU ：メニューの呼び出し
DISPLAY ：ディスプレイの切り替え
RETURN ：メニューのリターン
▲, ▼, ◄, ► ：カーソル上/下/左/右
ENTER ：設定の確定

2. ビデオディスクプレーヤー（VDP）のシステムボタン



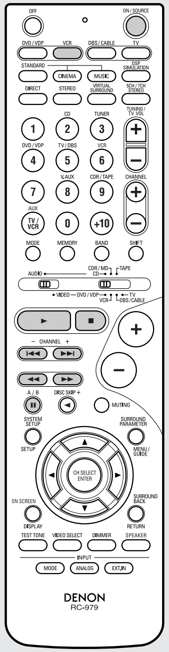
ON/SOURCE ：電源のオン/スタンバイ
DVD/VDP ：ビデオディスクプレーヤーの電源オン/オフ
0 ~ 9, +10 ：ナンバーボタン
► ：再生
■ ：停止
I◄◄, ►►I ：オートサーチ（頭出し）
◄◄, ►► ：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II ：一時停止

メモ

- DVDプレーヤーのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機器のリモコンの動作と照らし合わせてご使用ください。

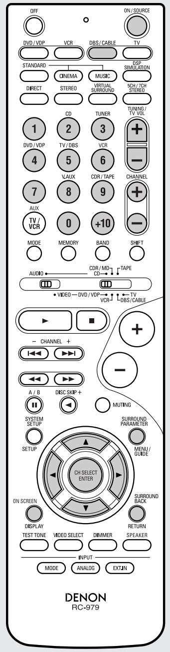
《応用操作のしかた》

3. ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン



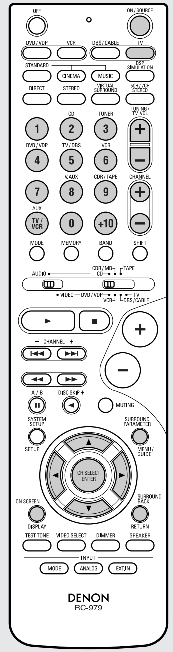
ON/SOURCE	:	電源のオン/スタンバイ
VCR	:	ビデオデッキの電源オン/オフ
►	:	再生
■	:	停止
Channel +, –	:	チャンネルの切り替え
◄◄, ►►	:	マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II	:	一時停止

4. 衛星放送（DBS）チューナーまたは ケーブル（CABLE）のシステムボタン

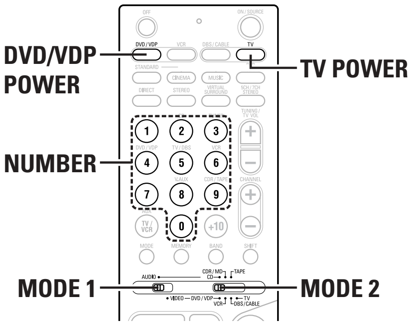


ON/SOURCE	:	電源のオン/スタンバイ
DBS/CABLE	:	衛生放送チューナー/ケーブルの電源オン/オフ
0 ~ 9, +10	:	チャンネルの選択
VOL +, –	:	音量のアップ/ダウン
CHANNEL +, –	:	チャンネルの切り替え
MENU	:	メニューの呼び出し
DISPLAY	:	ディスプレイの切り替え
RETURN	:	メニューのリターン
▲, ▼, ◄, ►	:	カーソル上/下/左/右
ENTER	:	設定の確定

5. モニターテレビ（TV）のシステムボタン



ON/SOURCE	:	電源のオン/スタンバイ
TV	:	テレビの電源オン/オフ
0 ~ 9, +10	:	チャンネル
TV/VCR	:	テレビ/ビデオの切り替え
VOL +, –	:	音量のアップ/ダウン
CHANNEL +, –	:	チャンネルの切り替え
MENU	:	メニューの呼び出し
DISPLAY	:	ディスプレイの切り替え
RETURN	:	メニューのリターン
▲, ▼, ◄, ►	:	カーソル上/下/左/右
ENTER	:	設定の確定

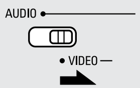


パンチスルーをおこなう

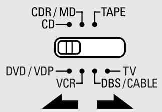
パンチスルーは **MODE 2** スイッチが “ DBS/CABLE ” または “ TV ” の位置でもCD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCRの再生（▶)、停止（■)、一時停止（❚❚)、早送り（▶▶）巻き戻し（◀◀）およびオートサーチ（❙◀◀　▶▶❙）ボタンを操作することができる機能です。

※ 工場出荷時の初期設定は、“ 設定なし ” です。

1 **MODE 1 スイッチを “ VIDEO ” の位置にする。**



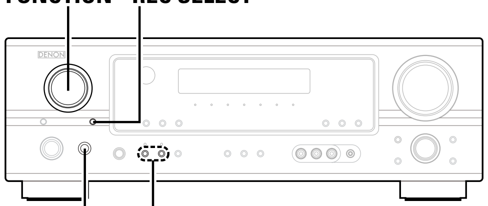
2 **MODE 2 スイッチをパンチスルーさせたい機器（DBS/CABLEまたはTV）の位置にする。**



3 **DVD/VDP と TV の電源ボタンを同時に押す。**
● 送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
TAPE	2
CDR/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0



その他の機能について

録音/録画をおこなう（REC OUTモード）

■ 再生中のソースを楽しみながら、別のプログラムソースを録音するには

1 **REC SELECT ボタンを押して、ディスプレイに“ RECOUT SOURCE ”を表示させる。**

2 **FUNCTION つまみを回して、録音したいソースを選ぶ。**

3 **録音/録画状態にする。**

※ 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

※ 解除するときは、**REC SELECT** ボタンを押して、ディスプレイに“ SOURCE ”が表示されるまで **FUNCTION** つまみを回してください。

メモ

- デジタル信号はオーディオ/ビデオ出力端子からは出力されません。

ラストファンクションメモリーについて

- 本機には電源を切る直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源を入れると、電源を切る直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
- 本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源を切ったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

《応用操作のしかた》

マイコンを初期化する

本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体またはリモコンのボタンが操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1 **POWER スイッチを“ OFF ”にする。**

2 **SPEAKER A ボタンと SPEAKER B ボタンを同時に押しながら、POWER スイッチを“ ON ”にする。**

3 **ディスプレイ表示が点滅してから、2つのボタンから指を離す。**

- マイコンが初期化されます。

メモ

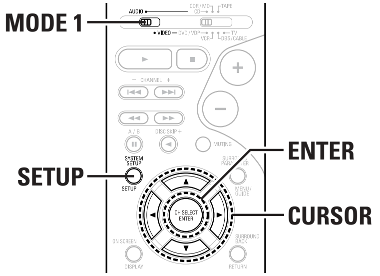
- 操作3の状態にならない場合は、もう一度操作1からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

より詳細なセットアップのしかた１

リスニング環境を満足させるために、いろいろな設定を希望に合わせておこなってください。
本製品のシステムメニューの内容と初期設定については、59、60ページを参照してください。

システムセットアップメニューの進めかた

本体とリモコンのボタンを使用して、設定を変えることができます。



1 **MODE 1 スイッチを“AUDIO”の位置にして、SETUP ボタンを押す。**
- “System Setup” トップメニューが表示されます。

2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押してトップメニューから項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押してメインメニューから項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

4 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して設定を選んだ後、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して設定を変更する。**

5 **ENTER ボタンを押して、新しい設定値を確定する。**

6 **SETUP ボタンを押して、“System Setup” トップメニューまたはメインメニューに戻る。**

【オンスクリーンディスプレイ】　【ディスプレイ】

1
```
System Setup
 1. Auto Setup
 2. Speaker Setup
>3. Input Setup
 4. Advanced Playback
 5. Option Setup

   Exit
```
```
                3
*Input Setup
```

3
```
3. Input Setup
>1. Digital In Assign.
 2. Ext In SW Level
 3. Input Function Level
 4. Function Rename

   Exit
```
```
               31
*Digital In
```

4
```
3-1. Digital In Assign.
 >COAXIAL1: ◀CD ▶
  COAXIAL2: AUX
  OPTICAL1: DVD
  OPTICAL2: TV

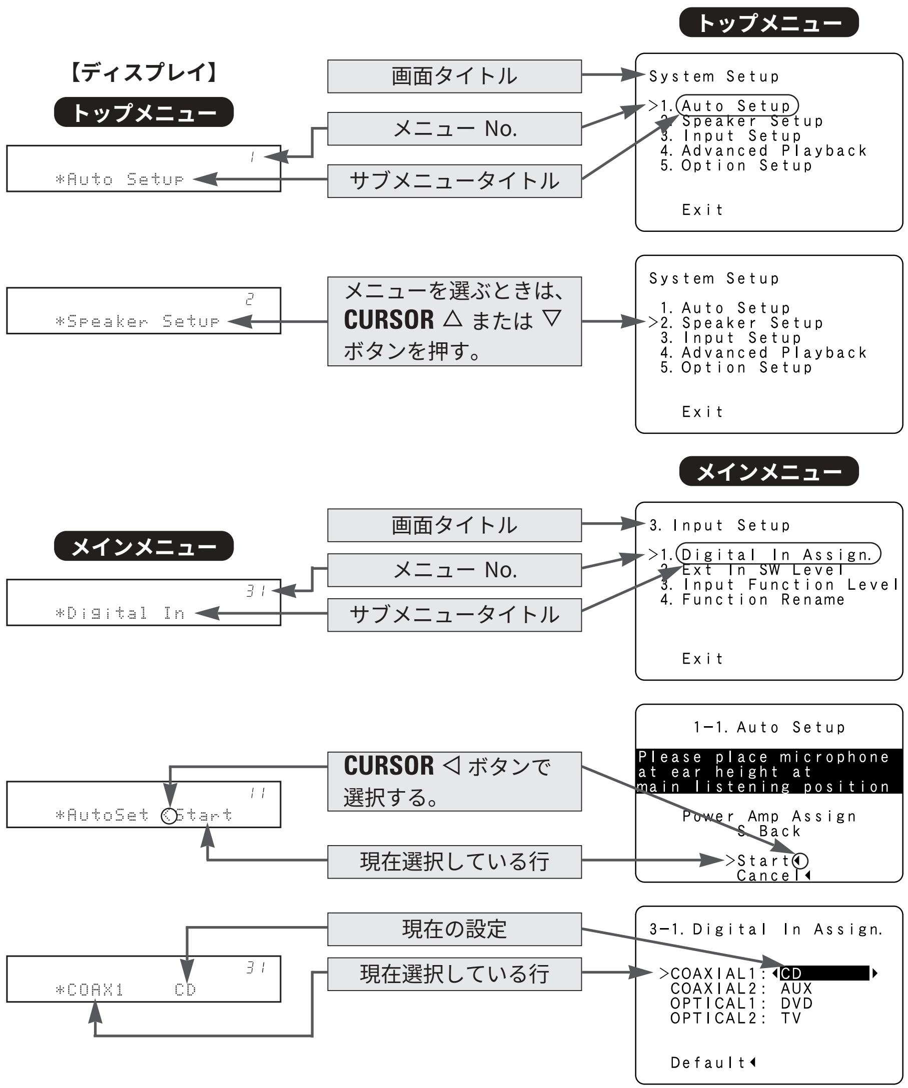
  Default◀
```
```
               31
*COAX1    CD
```

6
```
System Setup
 1. Auto Setup
 2. Speaker Setup
 3. Input Setup
 4. Advanced Playback
 5. Option Setup

 >Exit
```
```
                0
*Exit
```

オンスクリーンディスプレイとディスプレイ表示について

本機には、分かりやすいオンスクリーンディスプレイ機能を搭載しています。また、本体には設定内容を確認できるディスプレイも装備しています。
各種セットアップや操作のときにこれらのディスプレイ表示機能をお使いください。
いくつかの代表的なオンスクリーンディスプレイとディスプレイの表示例を下記に示します。



《より詳細なセットアップのしかた１》

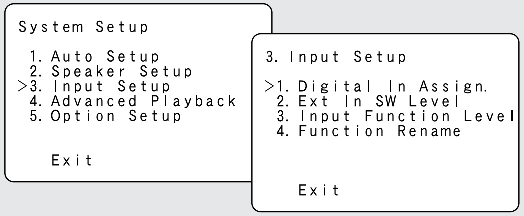
入力に関する設定のしかた

デジタル入力を設定する

本機のデジタル入力端子を入力ソースに対して割り当てます。

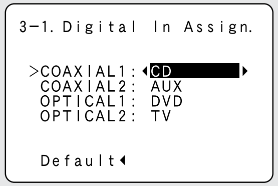
1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ System Setup ” 画面上で “ Input　Setup ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

● “ Input Setup ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Digital In Assign. ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

● “ Digital In Assign. ” 画面が表示されます。



3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、デジタル入力端子を選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、入力ソースを選ぶ。**

※ デジタル入力を使わない入力端子は、“ OFF ”を選択してください。

※ “ Default ” で “ Yes ” を選択すると、工場出荷時の初期設定（☞ 59ページ）に戻ります。

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

● “ Input Setup ” 画面に戻ります。

メモ

● 本機リアパネルのOPTICAL2端子はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用に光デジタル出力端子を備えていますので、デジタル録音の際にご利用ください。

● 本機リアパネルのOPTICAL2出力端子に接続した機器の出力をOPTICAL2入力端子以外に接続しないでください。

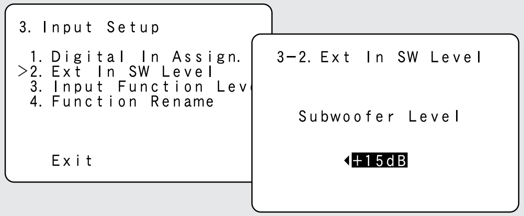
● “ V.AUX ” は、デジタル入力の設定では選択できません。

外部入力サブウーハーレベルを設定する

外部入力端子のサブウーハーに接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Input Setup ” 画面上で “ Ext In SW Level ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

● “ Ext In SW Level ” 画面が表示されます。



2 **使用するプレーヤーの仕様に合わせて、お好みの設定を選ぶ。**

※ デフォルトの “ ＋15dB ” を推奨します。
（0、+5、+10、+15dBが選択可能です。）

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

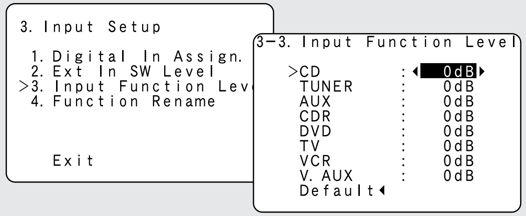
● “ Input Setup ” 画面に戻ります。

入力ソース間の再生レベルを補正する

入力ソース間の再生レベルを補正します。
各入力ソースに接続している機器ごとに再生レベルが異なる場合、入力ソースの再生レベルが同じになるように補正することによって、入力ソースを切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Input Setup ” 画面上で “ Input　Function　Level ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

● “ Input Function Level ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、入力ソースを選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、補正レベルを調整する。**

※ 音量は－12dB～＋12dBの範囲で、1dB単位で調整できます。

※ “ Default ” で “ Yes ” を選択すると、工場出荷時の初期設定（☞ 59ページ）に戻ります。

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

● “ Input Setup ” 画面に戻ります。

メモ

● 設定後は、各入力ソース間の再生レベルが同じになっているか確認してください。

入力ソース名を変更する

ディスプレイやオンスクリーンディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。
各入力ソースに接続された機器やメーカー名などを入力することができます。

1 CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Input Setup ”画面上で“ Function Rename ”を選び、ENTER ボタンを押す。

- “ Function Rename ” 画面が表示されます。

```
3. Input Setup

 1. Digital In Assign.
 2. Ext In SW Level
 3. Input Function Lev
>4. Function Rename


   Exit
```

```
3-4. Function Rename

 >CD       : CD
  TUNER    : TUNER
  AUX      : AUX
  CDR      : CDR
  DVD      : DVD
  TV       : TV
  VCR      : VCR
  V. AUX   : V. AUX
```

2 CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、名前を変更する入力ソースを選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、文字入力画面に切り替える。

【例】CDを選択して **CURSOR** ◁ または ▷ ボタンを押した場合

```
3-4. Function Rename


 >CD      : CD


   Default
```

3 CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、文字を入力する位置にカーソル（ █ ）を移動させ、CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、入力する文字を選ぶ。

※ 最大5文字まで入力できます。
　下記の文字が入力できます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ’ ( ) + , – . / : ; < = > ? [ ] (スペース)

4 操作3を繰り返して、入力ソース名を入力する。

※ 入力ソース名を初期状態に戻したい場合は、**CURSOR** ◁ または ▷ ボタンを押して入力ソースを反転させ、**CURSOR** ▽ ボタンを押してください。
※ “ Default ” で “ Yes ” を選択し **CURSOR** ◁ ボタンを押すと、初期の入力ソース名に戻ります。

```
3-4. Function Rename


 >CD      : DENON


   Default
```

```
3-4. Function Rename


  CD      : DENON


 >Default
```

5 入力ソース名が決まったら、ENTER ボタンを押す。

- “ Function Rename ” 画面に戻ります。

※ その他の入力ソース名の変更も同じようにおこなってください。

6 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

- “ Input Setup ” 画面に戻ります。

メモ

- 入力ソースが選択されたとき、ディスプレイおよびオンスクリーンディスプレイは下記のように表示されます。

【例】入力ソース名を “ DENON ” に変更した場合

```
[AUTO]
Input:DENON
Mode :STEREO
```

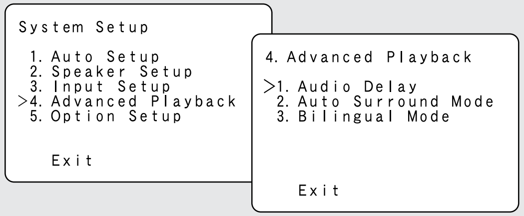
音声に関する設定のしかた

オーディオディレイを調整する

- DVDなどの映像ソフトを視聴しているときに、モニター画面の映像が音声に対して遅れていると感じる場合があります。このような場合にはオーディオディレイを調整し、音声を遅らせることで映像とのタイミングを合わせます。
- オーディオディレイの設定値は設定した入力ソースごとに記憶されます。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ System Setup ” 画面上で “ Advanced Playback ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Advanced Playback ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Audio Delay ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Audio Delay ” 画面が表示されます。



3 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、ディレイタイム（0ms ～ 200ms）を設定する。**

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整してください。

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- “ Advanced Playback ” 画面に戻ります。

メモ

- 外部入力モード時およびアナログ入力時のダイレクトモードおよびステレオモードで再生中、オーディオディレイは効きません。

《より詳細なセットアップのしかた１》

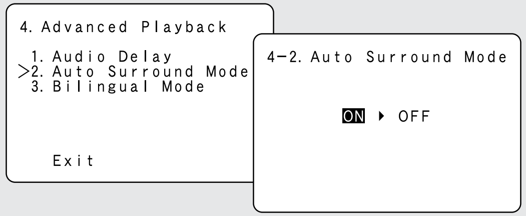
オートサラウンドモードを設定する

下記の3種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。

① アナログおよびPCMの2チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルやDTSなどの2チャンネル信号（DOLBY PLⅡx Cinema）
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号（DOLBY/DTS SURROUND）
※（　）内は初期設定。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Advanced Playback ” 画面上で “ Auto Surround Mode ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Auto Surround Mode ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、オートサラウンドモードを使用する場合は “ ON ” を選び、使用しない場合は “ OFF ” を選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

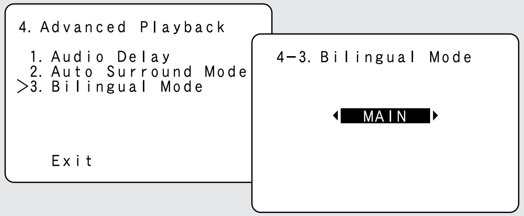
- “ Advanced Playback ” 画面に戻ります。

バイリンガルモードを設定する

AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。

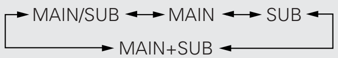
1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Advanced Playback ” 画面上で “ Bilingual Mode ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Bilingual Mode ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、音声出力モードを選ぶ。**

※ ボタンを押すたびに下記の順序で表示が切り替わります。



※ “ MAIN/SUB ” を選択すると、MAIN（主）音声は左チャンネルから、SUB（副）音声は右チャンネルから出力されます。

※ “ MAIN+SUB ” を選択すると、MAIN（主）音声とSUB（副）音声がミックスされて出力されます。

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- “ Advanced Playback ” 画面に戻ります。

4 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して “ Exit ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ System Setup ” 画面に戻ります。

メモ

- バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては、切り替えても無効です。

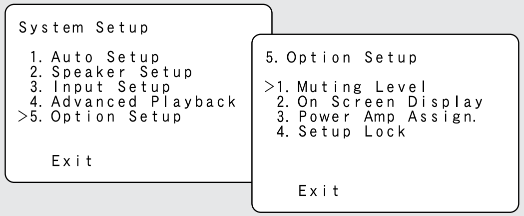
その他の設定のしかた

ミューティングレベルを設定する

ミューティングボタンが押されたときのボリウムの減衰量を設定することができます。

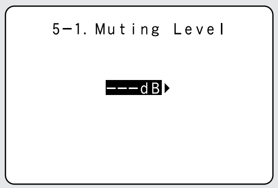
1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ System Setup ” 画面上で “ Option Setup ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Option Setup ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Muting Level ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Muting Level ” 画面が表示されます。



3 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、設定したいレベルを選ぶ。**

−20dB：
現在の再生レベルから−20dB減衰させて再生します。

−40dB：
現在の再生レベルから−40dB減衰させて再生します。

−−−dB：
音声出力をミュートします。

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- “ Option Setup ” 画面に戻ります。

オンスクリーンディスプレイ（OSD）を設定する

メニュー画面以外のオンスクリーンディスプレイ表示のON/OFFの切り替えができます。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Option Setup ” 画面上で “ On Screen Display ” を選び、ENTER ボタンを押す。**
- “ On Screen Display ” 画面が表示されます。

```
5. Option Setup
 1. Muting Level
>2. On Screen Display
 3. Power Amp Assign.
 4. Setup Lock

   Exit
```

```
5-2. On Screen Display

  >    ON ▸ OFF

     MODE1 : MODE2
```

2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、オンスクリーンディスプレイ表示の “ ON ” または “ OFF ” を選ぶ。**

3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、オンスクリーンディスプレイモードを選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、“ MODE1 ” または “ MODE2 ” を選ぶ。**

MODE1：
映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。

MODE2：
ちらつきの防止はおこないません。
ご使用になるテレビの組み合わせにより、MODE1にてオンスクリーンディスプレイが出ない場合は、本モードをご使用ください。

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ Option Setup ” 画面に戻ります。

パワーアンプの割り当てを変更する

サラウンドバックのパワーアンプをバイアンプのパワーアンプとして割り当てることができます。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Option Setup ” 画面上で “ Power Amp Assign. ” を選び、ENTER ボタンを押す。**
- “ Power Amp Assign. ” 画面が表示されます。

```
5. Option Setup
 1. Muting Level
 2. On Screen Display
>3. Power Amp Assign.
 4. Setup Lock

   Exit
```

```
5-3. Power Amp Assign.

      S. Back▸
```

2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、パワーアンプをどのチャンネル（“ S. Back ” または “ Bi-Amp ”）に割り当てるかを選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ Option Setup ” 画面に戻ります。

《より詳細なセットアップのしかた１》

セットアップ内容を保護する

システムセットアップで設定した内容を簡単に変更できないようにロックします。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Option Setup ” 画面上で “ Setup Lock ” を選び、ENTER ボタンを押す。**
- “ Setup Lock ” 画面が表示されます。

```
5. Option Setup
 1. Muting Level
 2. On Screen Display
 3. Power Amp Assign.
>4. Setup Lock

   Exit
```

```
5-4. Setup Lock

   ON ◂ OFF
```

2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、セットアップ内容をロックする場合は “ ON ” を選び、ロックしない場合は “ OFF ” を選ぶ。**

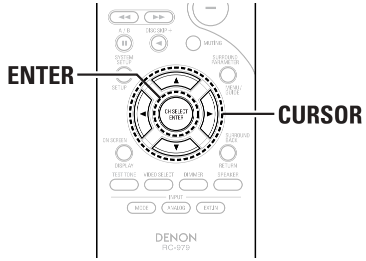
3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- システムセットアップモードを終了します。

メモ

- “ Setup Lock ” を “ ON ” に設定すると下記設定が変更できなくなり、関連するボタンを操作すると “ SETUP LOCKED ” が表示されます。
  ① システムセットアップの設定
  ② サラウンドパラメーターの設定値
  ③ トーンコントロールの設定値
  ④ チャンネルレベルの設定値（テストトーンも含む）
- 設定を解除する場合は、**SETUP** ボタンを押して再度 “ Setup Lock ” 画面を表示させ、“ OFF ” に設定し直してください。

より詳細なセットアップのしかた２

ご使用のスピーカーに合わせて、スピーカーシステムを手動で設定する場合または、オートセットアップで設定された内容を変更する場合に設定してください。



スピーカーに関する設定のしかた

スピーカーを設定する

- 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、各チャンネルの出力成分や特性を調節します。
- 本機のサラウンド機能を有効にお使いいただくために、“ スピーカーのセットアップについて ”（☞ 63～65ページ）も合わせてお読みください。

1 CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ System Setup ” 画面上で “ Speaker Setup ” を選び、ENTER ボタンを押す。

- “ Speaker Setup ” 画面が表示されます。

```
System Setup

 1. Auto Setup
>2. Speaker Setup
 3. Input Setup
 4. Advanced Playback
 5. Option Setup

   Exit
```

```
2. Speaker Setup

>1. Speaker Config.
 2. Delay Time
 3. Channel Level
 4. Crossover Frequency
 5. SW Mode Setup

   Exit
```

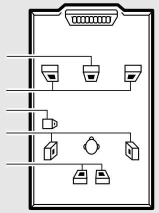
2 CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Speaker Config. ” を選び、ENTER ボタンを押す。

- “ Speaker Config. ” 画面が表示されます。

```
 2-1. Speaker Config.

>Front Sp.        Large
 Center Sp.       Small
 Surround Sp.     Small
 S. Back Sp.      Small
 S. Back Sp.      2sp
 Subwoofer        Yes
```

3 CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、スピーカーを選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、パラメーターを選ぶ。



4 ENTER ボタンを押して、設定を確定する。

- “ Speaker Setup ” 画面に戻ります。

メモ

- Large/Smallの選択は、スピーカーの外形で判断せずにクロスオーバー周波数（☞ 57ページ）で設定した周波数を基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で “ Small ” に設定した場合と “ Large ” に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

■ パラメーターについて

Large：
クロスオーバー周波数（☞ 57ページ）で設定した周波数以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

Small：
クロスオーバー周波数（☞ 57ページ）で設定した周波数以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。この設定をおこなった場合、設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

None：
スピーカーを設置していないときに選択します。

Yes / No：
サブウーハーを設置しているときには “ Yes ”、設置していないときには “ No ” を選択します。

2sp / 1sp：
サラウンドバックに使用するスピーカーの数を選択します。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を “ Small ” にしても良好な音場再生を得ることができます。

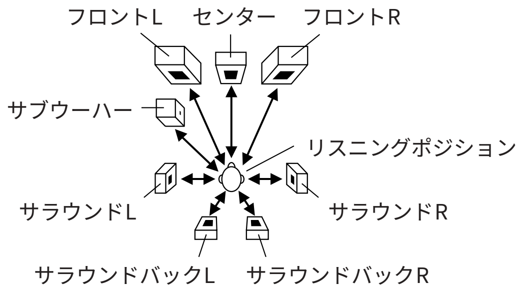
※ フロントスピーカーを “ Small ” に設定すると自動的にサブウーハーは “ Yes ” に設定され、サブウーハーを “ No ” に設定すると自動的にフロントスピーカーは “ Large ” に設定されます。

《より詳細なセットアップのしかた２》

ディレイタイムを設定する

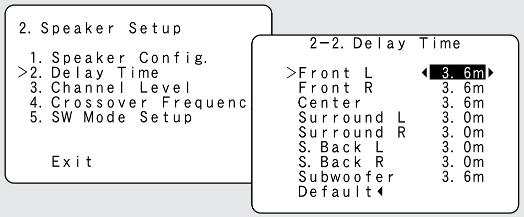
リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。

【準備】 リスニングポジションと各スピーカーとの距離を測定します。



1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Speaker Setup ” 画面上で “ Delay Time ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ On Screen Display ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ。**

3 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、スピーカーとリスニングポジションとの距離を設定する。**

※ ボタンを押すたびに数値が0.1m単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択します。

※ “ Default ” で “ Yes ” を選択すると、工場出荷時の初期設定（☞ 59ページ）に戻ります。

※ **各スピーカーに設定した距離の差はどれも6.0m以下でなければなりません。**

4 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

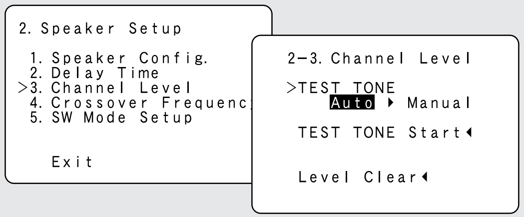
- “ Speaker Setup ” 画面に戻ります。

チャンネルレベルを設定する

- 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
- リスニングポジションで各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
- 調整はリモコンからのダイレクト操作でもおこなえます（☞ 57ページ）。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Speaker Setup ” 画面上で “ Channel Level ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Channel Leval ” 画面が表示されます。

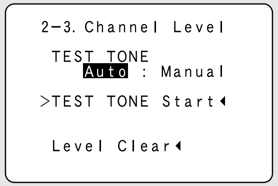


2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、“ Auto ” または “ Manual ” を選ぶ。**

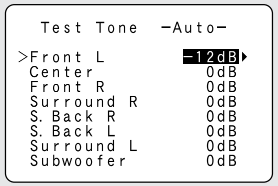
Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

Manual：
テストトーンを出力させたいスピーカーを選択してレベルを調整します。

3 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ TEST TONE Start ” を選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、“ Start ” を選ぶ。**

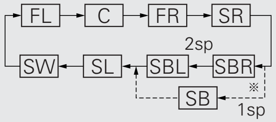


4-1 **【“ Auto ” モードを選んだとき】**
CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聞こえるように調整する。



※ 音量は－12dB～＋12dBの範囲で、1dB単位で調整できます。

※ 下記の順序で2周目までは4秒間隔、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。



※ “ スピーカーを設定する ”（☞ 55ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1sp ”に設定した場合は“ SB ”となります。

4-2 **【“ Manual ” モードを選んだとき】**
CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、テストトーンを出力させたいスピーカーを選び、CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように調整する。

5 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ Speaker Setup ” 画面に戻ります。

メモ

- 設定を取り消す場合は、“ Channel Level ” 画面上で **CURSOR** ▽ ボタンを押して “ Level Clear ” を選び、さらに **CURSOR** ◁ ボタンを押してください。
- チャンネルレベルの設定にてチャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
  チャンネルレベル設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調整する場合は、38ページの操作をおこなってください。

■ テストトーンの調節のしかた

- サラウンド再生の前にオートセットアップをおこなっていない場合は、テストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（☞ 56、57ページ）でもできますが、下記の通りリモコンでも調節できます。
- リモコンでのテストトーンによる調節は “ AUTO ” のみで、ドルビーサラウンドモードとDTSサラウンドモード時のみ有効で、調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

1 **STANDARD ボタンを押して、スタンダード（DOLBY/DTS SURROUND）モードを選ぶ。**

2 **TEST TONE ボタンを押す。**
- テストトーンが各スピーカーより出力されます。

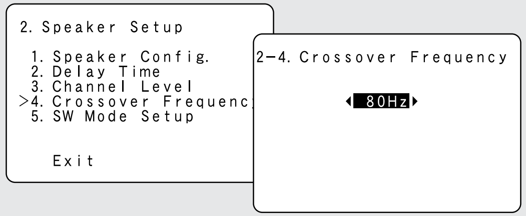
3 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、各スピーカーの音量が同じになるように調節する。**

4 **調節が終わったら、もう一度 TEST TONE ボタンを押す。**

クロスオーバー周波数を設定する

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、クロスオーバー周波数の設定をします。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Speaker Setup ” 画面上で “ Crossover Frequency ” を選び、ENTER ボタンを押す。**
- “ Crossover Frequency ” 画面が表示されます。



2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、クロスオーバー周波数を選ぶ。**

40 / 60 / 80 / 100 / 120 / 150 / 200 / 250 Hz：
お手持ちのスピーカーシステムの低域の再生能力に合わせてお好みで設定してください。

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**
- “ Speaker Setup ” 画面に戻ります。

■ クロスオーバー周波数について

- 各スピーカーからの低音域をサブウーハーまたは“ Large ”に設定しているスピーカー（サブウーハーを使用しない場合のみ）から何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
- “ Small ”に設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたは“ Large ”に設定しているスピーカーから出力します。
- クロスオーバー周波数モードの設定は“ スピーカーを設定する ”（☞ 55ページ）でサブウーハーを“ Yes ”に設定した場合、またはサブウーハーを“ No ”に設定してフロントスピーカーを“ Large ”および他のスピーカーを“ Small ”に設定した場合のみ有効です。
- 一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

ドルビーおよびDTS信号再生時以外の サブウーハーの動作についてのご注意

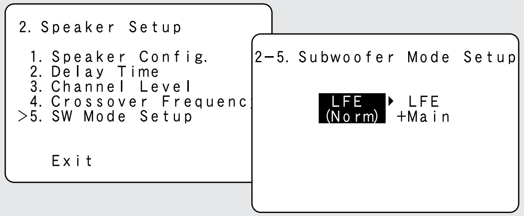
- ドルビーおよびDTS以外のサラウンドモードでは、サブウーハーが“ YES ”に設定されていると、低域成分が常にサブウーハーチャンネルに出力されます。
  チャンネルレベルの調節でサブウーハー“ OFF ”にすることができます（☞ 57ページ）。

サブウーハーモードを設定する

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、サブウーハーモードの設定をします。

1 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して、“ Speaker Setup ”画面上で“ Subwoofer Mode Setup ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ Subwoofer Mode Setup ”画面が表示されます。



2 **CURSOR ◁ または ▷ ボタンを押して、サブウーハーモードおよび低域信号の再生モードを選ぶ。**

3 **ENTER ボタンを押して、設定を確定する。**

- “ Speaker Setup ”画面に戻ります。

4 **CURSOR △ または ▽ ボタンを押して“ Exit ”を選び、ENTER ボタンを押す。**

- “ System Setup ”画面に戻ります。

《より詳細なセットアップのしかた２》

■ サブウーハーモードについて

- サブウーハーモードの設定は“ スピーカーを設定する ”（☞ 55ページ）でフロントスピーカーを“ Large ”およびサブウーハーを“ Yes ”に設定した場合のみ有効です。
- “ LFE+Main ”モードを選択すると、“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生されます。このモードでは、より均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。
- “ LFE ”再生モードを選択すると、“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。この再生モードは、室内の低音域干渉が起こりにくくなります。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選択してください。
- 音楽ソースや映画ソースにLFE（低音域信号）が含まれていない場合は、サブウーハーから出力されません。

《より詳細なセットアップのしかた２》

システムセットアップの内容と初期設定について

1. オートセットアップ

	内容			初期設定	参照ページ
1	**Auto Setup**	**Power Amp Assign.**	サラウンドバックのパワーアンプをサラウンドバックまたはバイアンプ用のパワーアンプとして使用するかを設定します。	SURROUND BACK	16～19

2. スピーカーに関する設定

	内容		初期設定								参照ページ
1	**Speaker Config.**	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。	Front Sp.	Center Sp.	Subwoofer	Surround Sp.	Surround Back Sp.				55
			Large	Small	Yes	Small	Small / 2sp				
2	**Delay Time**	リスニングポジションに応じて各スピーカー、サブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	Front L & R	Center	Subwoofer	Surround L & R	Surround Back L & R				56
			3.6 m	3.6 m	3.6 m	3.0 m	3.0 m				
3	**Channel Level**	最適な効果を得られるように、各スピーカーやサブウーハーから出力される音量をそれぞれチャンネルごとに調整します。	Front L	Front R	Center	Surround L	Surround R	Surround Back L	Surround Back R	Subwoofer	56、57
			0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	
4	**Crossover Frequency**	各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。	80 Hz								57、58
5	**SW Mode Setup**	重低音信号を再生するサブウーハーやスピーカーを選択します。	LFE (Normal)								58

3. 入力に関する設定

	内容			初期設定								参照ページ
1	**Digital In Assign.**	デジタル入力端子に対して、各入力ソースを割り当てます。	**入力ソース**	CD	AUX	DVD / VDP	TV / DBS					50
			デジタル入力	COAX1	COAX2	OPT1	OPT2					
2	**Ext In SW Level**	外部入力のサブウーハー端子に接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。		Subwoofer = +15 dB								50
3	**Input Function Level**	入力ソース間で異なる再生レベルを個別に補正します。		CD	TUNER	AUX	CDR / TAPE	DVD / VDP	TV / DBS	VCR	V. AUX	50
				0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	0 dB	
4	**Function Rename**	オンスクリーンディスプレイやディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。		CD	TUNER	AUX	CDR	DVD	TV	VCR	V. AUX	51

《より詳細なセットアップのしかた２》

4. 音声に関する設定

	内容		初期設定	参照ページ
1	**Audio Delay**	映像信号と音声信号の時間差を調整します。	0 ms	52
2	**Auto Surround Mode**	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	Auto Surround Mode = ON	52
3	**Bilingual Mode**	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN	53

5. その他の設定

	内容		初期設定	参照ページ
1	**Muting Level**	ミューティング時の音声出力の減衰量を設定します。	– – – dB (minimum)	53
2	**On Screen Display**	本機をリモコンや本体操作ボタンなどにより操作した際に、確認のためモニター画面上にあらわれる、オンスクリーン表示の表示有無を設定します。ちらつき防止の設定ができます。	On Screen Display = ON / MODE1	54
3	**Power Amp Assign.**	サラウンドバックのパワーアンプをサラウンドバックまたはバイアンプ用のパワーアンプとして使用するかを設定します。	Surround Back	54
4	**Setup Lock**	システムセットアップの設定を変更できないようにロックするかどうか設定します。	Setup Lock = OFF	54

その他について

故障かな？と思ったら

■ **各接続は正しいですか**
■ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
■ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	24
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーコード接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	14
	● 入力切り替えボタンの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えてください。	25
	● 主音量調節つまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	25
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	26
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	27
モニターが映らない。	● 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	15
	● モニターTVの入力設定が違う。	● TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	—
	● 本機のモニター出力端子とモニター間をビデオケーブルやSビデオケーブル、本機と再生機器間をD端子用接続ケーブルで接続している。	● 本機と再生機器間をビデオケーブルまたはSビデオケーブルで接続してください。	15
dts音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。	—
	● DVDプレーヤーがdts対応になっていない。	● dts対応のプレーヤーを使用してください。	—
	● 本機の入力設定がアナログになっている。	● " AUTO " または " dts " に設定してください。	27
DVDからVCRにダビングできない	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	—
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの電源が入っていない。	● 電源を入れてください。	—
	● サブウーハーの初期設定が " NO " になっている。	● 設定を " YES " にしてください。	55
	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	14
	● サブウーハーのチャンネルボリウムの設定が " OFF " になっている。	● サブウーハーのチャンネルボリウムを上げてください。	38
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	● ドルビーサラウンドモードにしてください。	57
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	9
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	9
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	9
	● 操作したいボタン以外のボタンを押している。	● 操作したいボタンを押してください。	—
	● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	9
AAC表示が点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	22

《その他について》

保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

《その他について》

スピーカーのセットアップについて

ソースごとに異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

■ マルチチャンネル信号の種類

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、スーパーオーディオCD、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

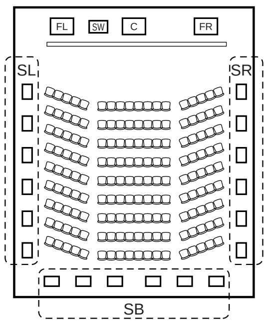
しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）ではなく、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

■ ソースの種類

● 映画の音声：

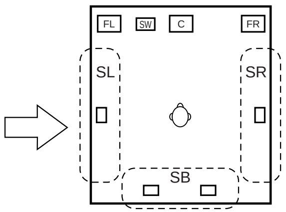
映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

映画館の音場



マルチサラウンドスピーカー（6.1chシステムの場合）

リスニングルームでの映画再生

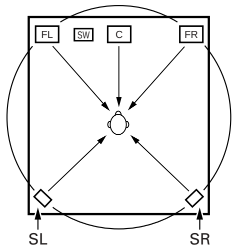


サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。
そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4〜8本程度）、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル

● その他の音声：

3〜5本程度のスピーカーを用いて360 ° の音場を再現することを目的につくられた信号です。



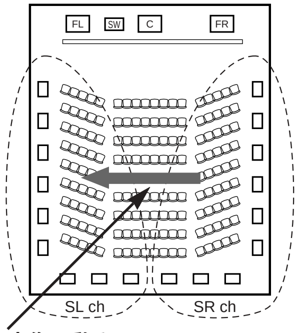
各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360 ° 均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

サラウンドバックスピーカーについて

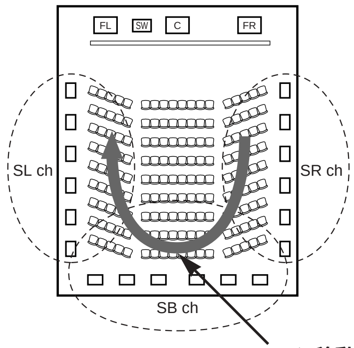
6.1chシステムよって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーに合わせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる定位・音像の変化



SR→SLと移動する音像の動き

6.1chシステムによる定位・音像の変化



SR→SB→SLと移動する音像の動き

サラウンドバックスピーカーを追加することにより6.1chで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。
また、他のDENONオリジナルサラウンド（☞35ページ）もすべて7.1ch再生に対応しており、すべての信号ソースに対して7.1ch再生をお楽しみいただけます。

■ サラウンドバックスピーカーの本数について

サラウンドバックチャンネルは、6.1chソース（DTS-ESなど）においては1chの再生信号ですが、2本のスピーカーを使用することを推奨します。特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、2本使用することが必須となります。
2本使用することにより、1本だけ使用した場合に比べてサラウンドチャンネルとの音のつながりやオフセンターで聞いた場合のサラウンドバックチャンネルの定位感を向上させることができます。

■ サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。
これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースを6.1サラウンドまたはDTS-ESマトリクス6.1モードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

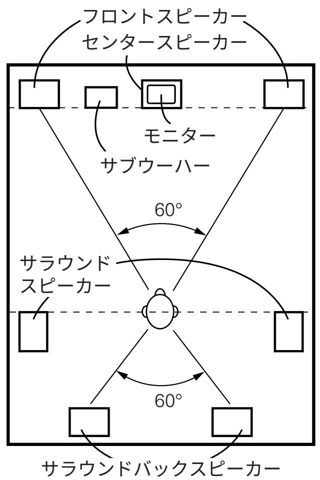
スピーカーセッティング例

次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

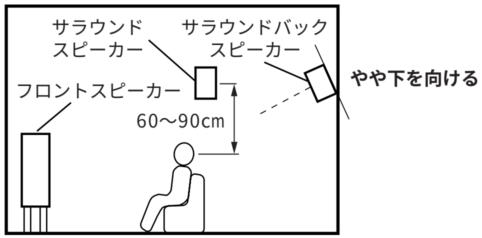
【1】6.1chサラウンド（DTS-ESなど）システム（サラウンドバックスピーカーを使用）の場合

① 映画再生をメインにおこなう基本的なセッティング

映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。



【上面から見た図】



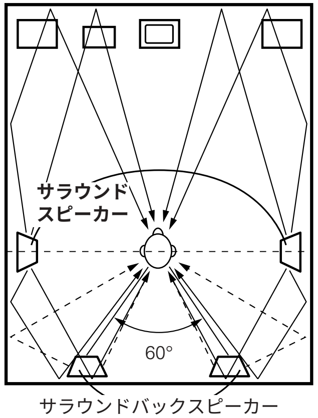
【側面から見た図】

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2本設置する場合は後方から前向きにフロントL、Rよりも狭い角度で、1本設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置（サラウンドスピーカー　＋0〜20cmの高さで）に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。

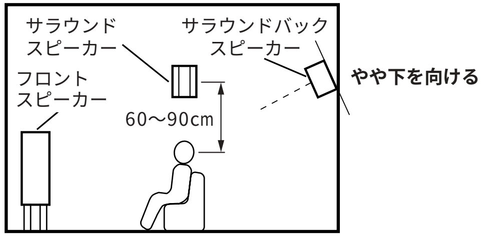
② 映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を①に比べてやや前寄りにします。

サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ



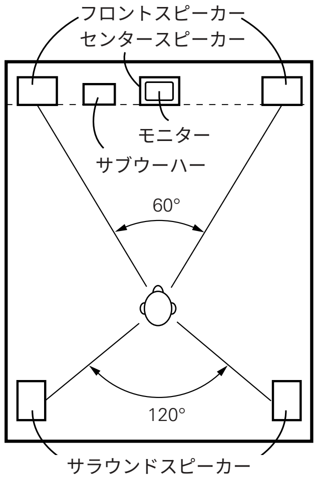
【上面から見た図】



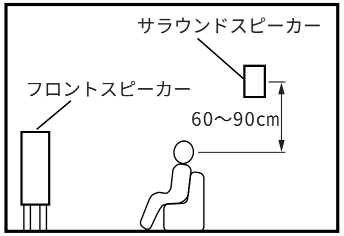
【側面から見た図】

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は①と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60〜90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、①と同様です。また、サラウンドバックスピーカーにもダイポール特性のスピーカーを用いた方がより効果的です。
- サラウンドチャンネルの信号は、上図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合



【上面から見た図】



【側面から見た図】

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。

《その他について》

サラウンドについて

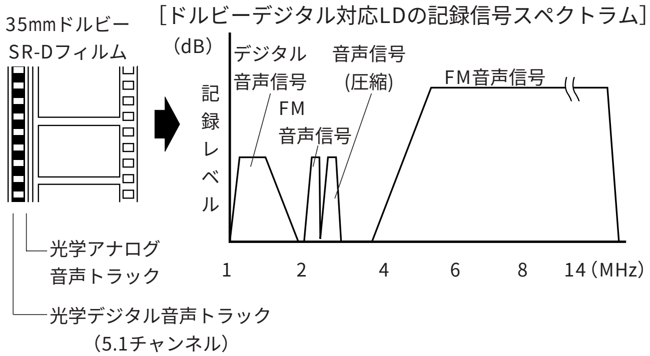
本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドについて

【1】ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C （フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch　SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応が可能です。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル)』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することが可能となりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY　SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

■ SR-Dとドルビーデジタルの関係



■ ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビーデジタル	ドルビープロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L, R, C, S(SWは推奨)
音声処理	デジタルディスクリート処理 ドルビーデジタル エンコード/デコード	アナログマトリックス処理 ドルビーサラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

《その他について》

■ ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク：

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力専用同軸端子 ※1	入力モードを“AUTO”に設定します（☞27ページ）。
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通） ※2	入力モードを“AUTO”に設定します（☞27ページ）。
その他 (衛星放送、CATVなど)	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）	入力モードを“AUTO”に設定します（☞27ページ）。

※1：デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。(アダプターの取扱説明書を参照してください。)

※2：DVDのデジタル出力には、ドルビーデジタル信号の出力方法を“ビットストリーム”と“PCM（に変換）”とで切り替える機能を持つものがあります。本機でドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、これらのモードを“ビットストリーム”に切り替えてください。またデジタル出力が“ビットストリーム/PCM兼用”と“PCM専用”に分かれている場合があります。この場合は“ビットストリーム/PCM兼用”端子を本機に接続してください。

【2】ドルビープロロジックⅡ

- ドルビープロロジックⅡは、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。
- ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。
- サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。
- 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました（☞ 71ページ）。

【3】ドルビープロロジックⅡx

ドルビープロロジックⅡxはドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。
また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

※ ドルビーサラウンド録音されたソースとは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックⅡデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。
  ① PCMステレオ2ch信号
  ② ドルビーデジタル2ch信号

いずれの信号が本機に入力されても“DOLBY/DTS SURROUND”モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に“ドルビープロロジックⅡ”となります。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースについて

ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。
ドルビーサラウンド対応マーク：DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“Pro　Logic”およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSデジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE　0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■ DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： dts または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します（☞27ページ)。絶対に“ANALOG”や“PCM”モードには切り替えないでください。※1
LD（VDP)	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※2	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します（☞27ページ)。絶対に“ANALOG”や“PCM”モードには切り替えないでください。※1
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）※3	入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します（☞27ページ)。

※1：CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず“AUTO”または“DTS”モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に“ANALOG”や“PCM”モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。）

※2：CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発生することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTS表示（☞27ページ）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

※3：DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンス契約に基づき製造されています。
US Pat. No. 5.451.942、5.956.674、5.974.380、5.978.762、6.226.616、6.487.535その他、国外特許および特許出願物。“DTS”、“DTS-ES Extended surround”、“Neo:6”、“DTS 96/24”はデジタル・シアター・システムズ社の商標です。1996,2003 Digital Theater Systems, Inc. 版権所有。

DTS-ES Extended Surround™について

“DTS-ES Extended Surround”は、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。“DTS-ES Extended Surround”は、従来のDTSドルビーサラウンドフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。
“DTS-ES Extended Surround”はサラウンドチャンネルとしてFL/FR/C/SL/SR/LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバックまたはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

《その他について》

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：
追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL/SR/SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL,SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落無く再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：
追加されたSBチャンネルをあらかじめSL/SRチャンネルへマトリクスエンコードを施し挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL/SR/SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。もちろん、DTS-ES Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。但しMatrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。これらを再生する場合は、手動でDTS-ES Matrix6.1モードを選択する必要があります。（サラウンドモード選択の方法については31ページを参照してください。）

またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号及びアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO:6サラウンドモードがあります。

DTS NEO:6™ サラウンドについて：

DTS-ES　Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネルすべてのチャンネルでフルバンド（周波数特性20～20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。

DTS　NEO:6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：

映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。

同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL/SR/SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

DTS NEO:6 MUSIC：

主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル(FL/FR)の信号を重視してデコードすることにより音質の変化が少なく、更にセンター（C）とサラウンド（SL/SR/SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

DTS-96/24について

現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit　5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。

例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。

しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざると得なく静止が像のみの収録が一般的です。

また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。

DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度で留まっていたのに対して、DTS　96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。

また、24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。

DTS　96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS　96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。

従って、DTS　96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像とともに楽しむことができます。またDTS　96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※1）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。

このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。

さらに、DTS　96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です（※2）。

※1：DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS　96/24にて収録されたメディアが必要です。

※2：分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

AACについて

MPEG2-AAC（ Advanced Audio Coding） は MPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。
そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

■ MPEG2-AACのスペック（概要）

- **アルゴリズム：**
  MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scaleable Sampling Rate）プロファイル
- **サンプリング周波数：**
  8kHzから96kHzまで対応
- **チャンネル数：**
  最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- **その他の機能：**
  LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1、2、3などがありますが、それらとAACの間に互換性はありません。本機はその中で先に述べたAACの再生に対応します。

■ AACに関する米国パテントナンバー

08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

《その他について》

 《その他について》

サラウンドモードとパラメーター 一覧表

モード	パラメーター　（　）内は初期値										
	チャンネル出力					ドルビーデジタル信号再生時	DTS信号再生時	PCM信号再生時	アナログ信号再生時	ドルビー/DTS信号再生時	
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SURROUND BACK L/R	SUBWOOFER					D. COMP.	LFE
DIRECT	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
STEREO	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
EXTERNAL INPUT	○	◎	◎	×	◎	×	×	×	○	×	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○	◎	◎	◎	◎	○ *	○ *	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○	◎	◎	◎	◎	○ *	○ *	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ *	○ *	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○	×	×	×	○ (OFF)	○ (0 dB)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	×	○	×	×	○ (OFF)	○ (0 dB)
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0 dB)

○： 信号有り
×： 信号無し
◎： スピーカーコンフィグレーションの設定により、ON/OFF可能

○： 制御可能
×： 制御不可能
＊： 2チャンネル時のみ

○： 制御可能
×： 制御不可能

モード	パラメーター　（　）内は初期値											
	SB CH OUT (MODE)	TONE CONTROL	CINEMA EQ.	MODE	サラウンドパラメーター							
					ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	PRO LOGIC Ⅱ / Ⅱx のみ			NEO:6 MUSIC	EXT. IN
								PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT
DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
EXTERNAL INPUT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	○	×	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	○	×	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DTS NEO:6	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	○	×	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×
DOLBY DIGITAL	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×
MATRIX	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (30 msec)	×	×	×	×	×
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○： 制御可能
×： 制御不可能

主な仕様

■ オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力：	フロント：	80 W + 80 W （負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08%） 135 W + 135 W （負荷6Ω、EIAJ）
	センター：	80 W （負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08%） 135 W （負荷6Ω、EIAJ）
	サラウンド：	80 W + 80 W （負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08%） 135 W + 135 W （負荷6Ω、EIAJ）
	サラウンドバック：	80 W + 80 W （負荷8Ω、20Hz～20kHz）T.H.D 0.08%） 135 W + 135 W （負荷6Ω、EIAJ）
出力端子：	フロント： AまたはB	6～16 Ω
	A＋B	12～16 Ω
	センター/サラウンド/サラウンドバック：	6～16 Ω

● アナログ部

入力感度：	200mV/47kΩ
周波数特性：	10Hz～100kHz：＋1、ー3dB（ダイレクトモード時）
S/N比：	98dB（JIS-A）（ダイレクトモード時）

■ ビデオ部

● 標準映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	1Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz：＋1、ー3dB

● S映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω C（色）信号： 0.286Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz： ＋1、ー3dB

● コンポーネント映像端子

入出力レベル/インピーダンス：	Y（輝度）信号： 1Vp-p/75Ω PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p/75Ω PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz～30MHz： ＋1、ー3dB

■ 総合

電源：	AC100V 50/60Hz
消費電力：	電源入り（ON）時： 240W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時： 1W未満
最大外形寸法：	434（幅）×147（高さ）×417（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量：	11.3 kg

■ リモコン (RC-979)

乾電池：	R6P（単3形）乾電池2本使用
外形寸法：	55（幅）×225（高さ）×34.5（奥行き）mm
質量：	165g（乾電池を含む）

※ （EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

メモ

株式会社デノンコンシューマーマーケティング

本　社　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：03-6731-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　年　月　日	

Printed in China　00D 511 4328 107